

## 地域活動への参加等について

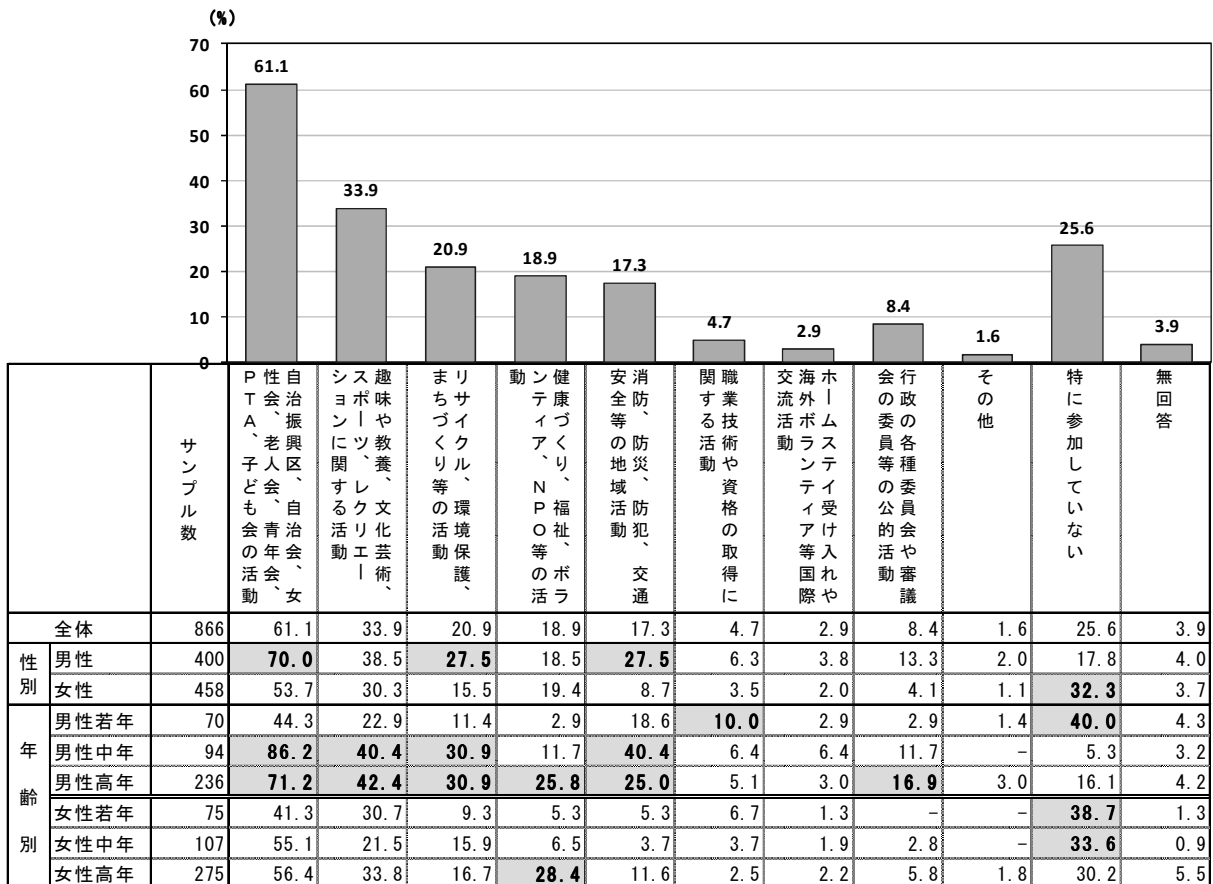
### 12 参加している地域活動（問 20）

地域の活動への参加状況をみると、「自治振興区、自治会、女性会、老人会、青年会、PTA、子ども会の活動」が61.1%と圧倒的に多くなっています。次いで「趣味や教養、文化芸術、スポーツ、レクリエーションに関する活動」が33.9%、「リサイクル、環境保護、まちづくり等の活動」が20.9%となっています。

#### 【属性別特徴】

- 性別にみると、男性の方が活動への参加率が概ね多くなっています。女性では「特に参加していない」が32.3%と多くなっています。
- 年齢別にみると、男性の中年層、高年層での参加率が多く、若年層では「特に参加していない」が40.0%と多くなっています。

問問 20. あなたは、次のような活動に参加していますか。（○印いくつでも）



（注）太字は、全体よりも5ポイント以上大きいもの（「無回答」を除く）

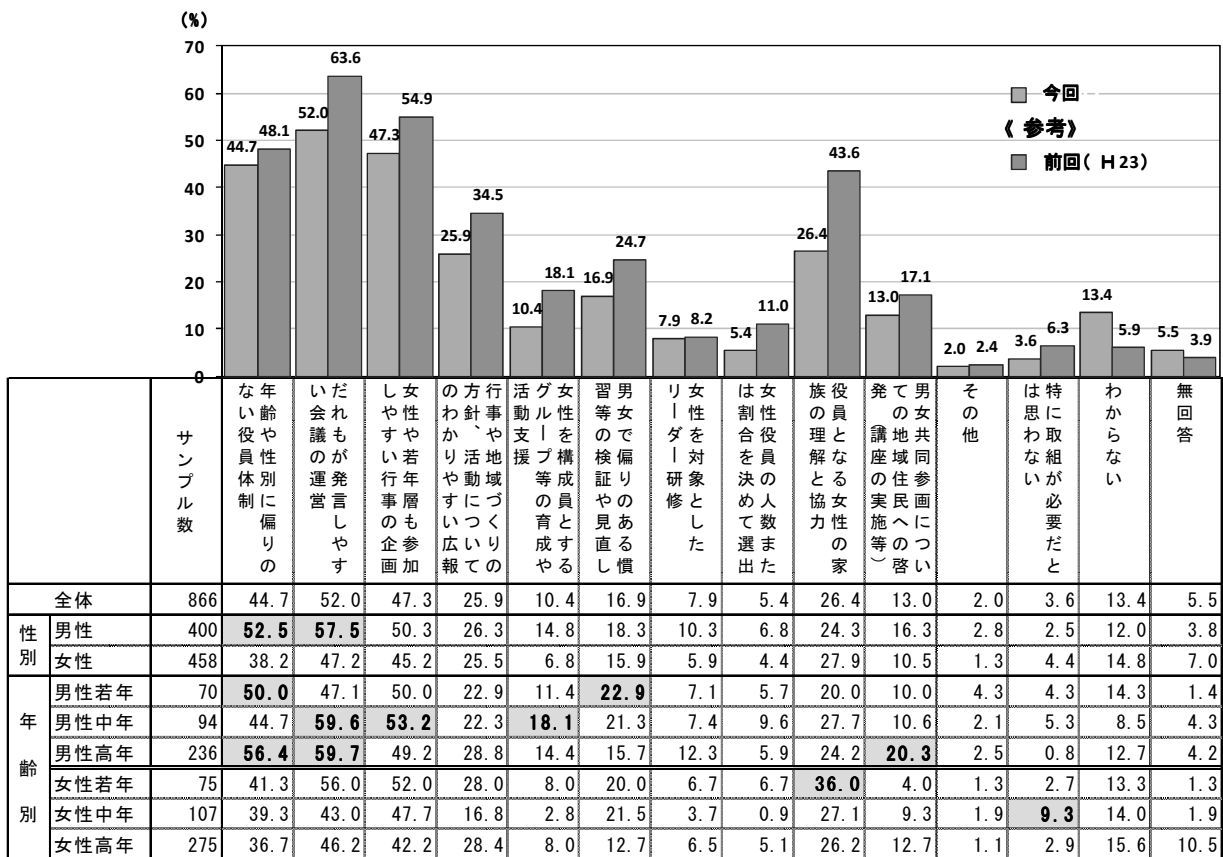
### 13 地域活動に参加するため力をいれるべこと（問 21）

男女がともに自治振興区等の地域活動に参加するために特に力をいれるべきこととしては、「だれもが発言しやすい会議の運営」が 52.0%と最も多くなっています。次いで「女性や若年層も参加しやすい行事の企画」（47.3%）と「年齢や性別に偏りのない役員体制」（44.7%）が 40%台で続き、「役員となる女性の家族の理解と協力」（26.4%）、「行事や地域づくりの方針、活動についてのわかりやすい広報」（25.9%）となっています。

#### 【属性別特徴】

- 性別、年齢別にみても、「だれもが発言しやすい会議の運営」、「女性や若年層も参加しやすい行事の企画」、「年齢や性別に偏りのない役員体制」の3つが多くなっています。

問 21. あなたは、男女がともに自治振興区等の地域活動に参加するためには、特に、どのようなことに力をいれるべきだと思いますか。（〇印5つまで）



(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの(「無回答」を除く)

## ドメスティック・バイオレンス（DV）について

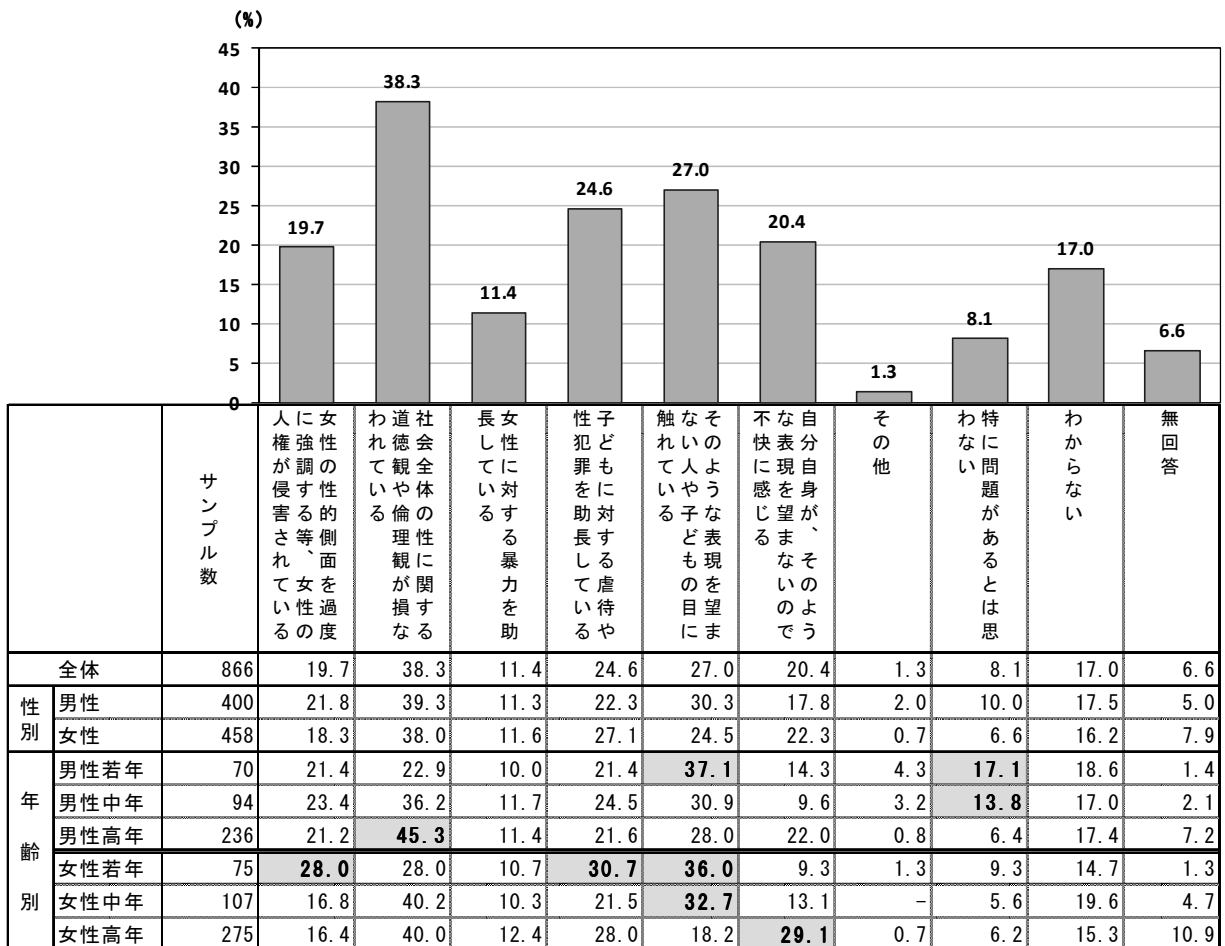
### 14 ドメスティック・バイオレンス（DV）の問題点（問22）

テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性・暴力表現について問題がある点としては、「社会全体の性に関する道徳観や倫理観が損なわれている」が38.3%と最も多くなっています。次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」（27.0%）、「子どもに対する虐待や性犯罪を助長している」（24.6%）、「自分自身が、そのような表現を望まないのて不快に感じる」（20.4%）、「女性の性的側面を過度に強調する等、女性の人権が侵害されている」（19.7%）、「女性に対する暴力を助長している」（11.4%）となっています。

#### 【属性別特徴】

- 年齢別にみると、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」が男性若年層で37.1%、女性若年層で36.0%と最も多くなっています。  
「社会全体の性に関する道徳観や倫理観が損なわれている」は、男女とも中年層、高年層で最も多くなっています。

問22. あなたは、テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性・暴力表現について、どのような点で問題があると思いますか。（〇印3つまで）



（注）太字は、全体よりも5ポイント以上大きいもの（「無回答」を除く）

## 15 暴力（ドメスティック・バイオレンス）（問 23）

### 【どんな場合でも暴力】トップ5（「どんな場合でも暴力だと思う」）

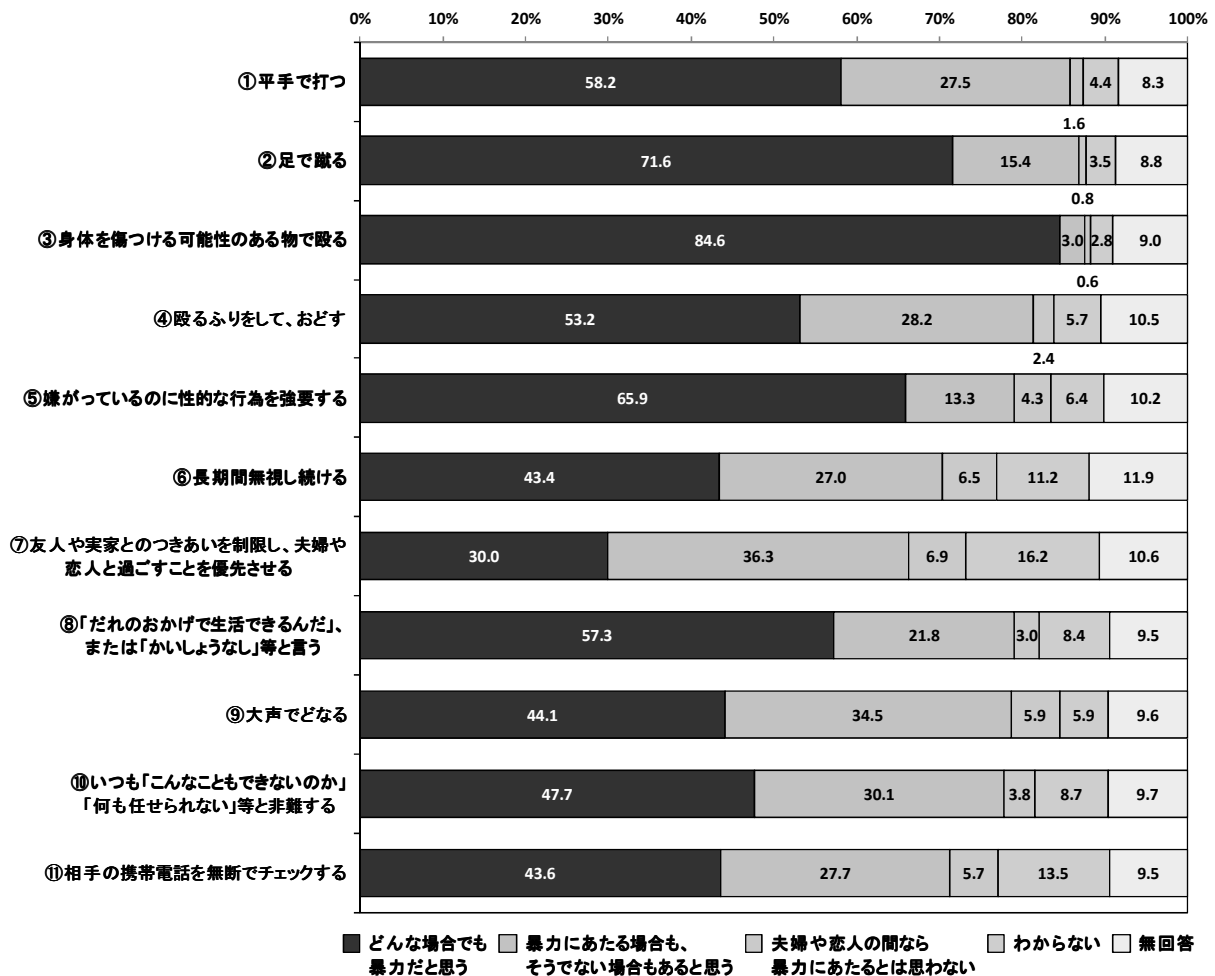
身体を傷つける可能性のある物で殴る	84.6%
足で蹴る	71.6%
嫌がっているのに性的な行為を強要する	65.9%
平手で打つ	58.2%
「だれのおかげで生活できるんだ」、または「かいしょうなし」等と言う	57.3%

### 【ケース・バイ・ケースで暴力】トップ5

（「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」+「夫婦や恋人の間なら暴力にあたるとは思わない」）

友人や実家とのつきあいを制限し、夫婦や恋人と過ごすことを優先させる	43.2%
大声でどなる	40.4%
いつも「こんなこともできないのか」「何も任せられない」等と非難する	33.9%
長期間無視し続ける	33.5%
相手の携帯電話を無断でチェックする	33.4%

問 23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われたとしたら、それは暴力（ドメスティック・バイオレンス）だと思いますか。（○印1つずつ）



【属性別特徴】

- 性別にみると、「いつも「こんなこともできないのか」「何も任せられない」等と非難する」、「大声でどなる」、「友人や実家とのつきあいを制限し、夫婦や恋人と過ごすことを優先させる」で男女の差が大きくなっています。
- 年齢別にみると、男性若年層、女性では若年層と中年層で暴力と認識している人が全体的に多くなっています。ただ、女性若年層では「相手の携帯電話を無断でチェックする」や「長期間無視し続ける」などはケース・バイ・ケースが多くなっています。  
男性中年層ではケース・バイ・ケースが多くなっている項目もかなりみられます。

■ 属性別にみた暴力（ドメスティック・バイオレンス） ■

【どんなときでも暴力】

	サンプル数	平手で打つ	足で蹴る	身体を傷つける可能性のある物で殴る	殴るふりをして、おどす	嫌がっているのに性的な行為を強要する	長期間無視し続ける	過ごすことを優先させるとい	友人や実家とのつきあい	いき「だれののおかげで生活できようなし」等と言	大声でどなる	「いつも「こんなこともできないのか」「何も任せられない」等と非難する	相手の携帯電話を無断でチェックする
全体	866	58.2	71.6	84.6	53.2	65.9	43.4	30.0	57.3	44.1	47.7	43.6	
性別	男性	400	58.3	72.8	87.5	53.0	66.8	41.8	26.5	55.5	38.0	43.5	44.0
	女性	458	58.3	71.0	82.5	53.9	65.7	44.3	33.0	58.7	<b>49.3</b>	51.1	43.2
年齢別	男性若年	70	61.4	<b>80.0</b>	<b>92.9</b>	<b>67.1</b>	<b>85.7</b>	<b>57.1</b>	<b>35.7</b>	<b>64.3</b>	<b>52.9</b>	<b>58.6</b>	45.7
	男性中年	94	59.6	<b>80.9</b>	<b>91.5</b>	<b>61.7</b>	70.2	45.7	29.8	59.6	37.2	44.7	43.6
	男性高年	236	56.8	67.4	84.3	45.3	59.7	35.6	22.5	51.3	33.9	38.6	43.6
	女性若年	75	<b>64.0</b>	76.0	<b>97.3</b>	<b>70.7</b>	<b>84.0</b>	<b>49.3</b>	<b>45.3</b>	<b>65.3</b>	<b>54.7</b>	<b>66.7</b>	38.7
	女性中年	107	61.7	<b>78.5</b>	<b>92.5</b>	<b>68.2</b>	<b>82.2</b>	<b>57.9</b>	<b>46.7</b>	<b>68.2</b>	<b>58.9</b>	<b>63.6</b>	47.7
	女性高年	275	55.6	66.5	74.5	43.6	54.2	37.5	24.0	53.1	44.4	42.2	42.9

(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

※「どんな場合でも暴力だと思う」の割合

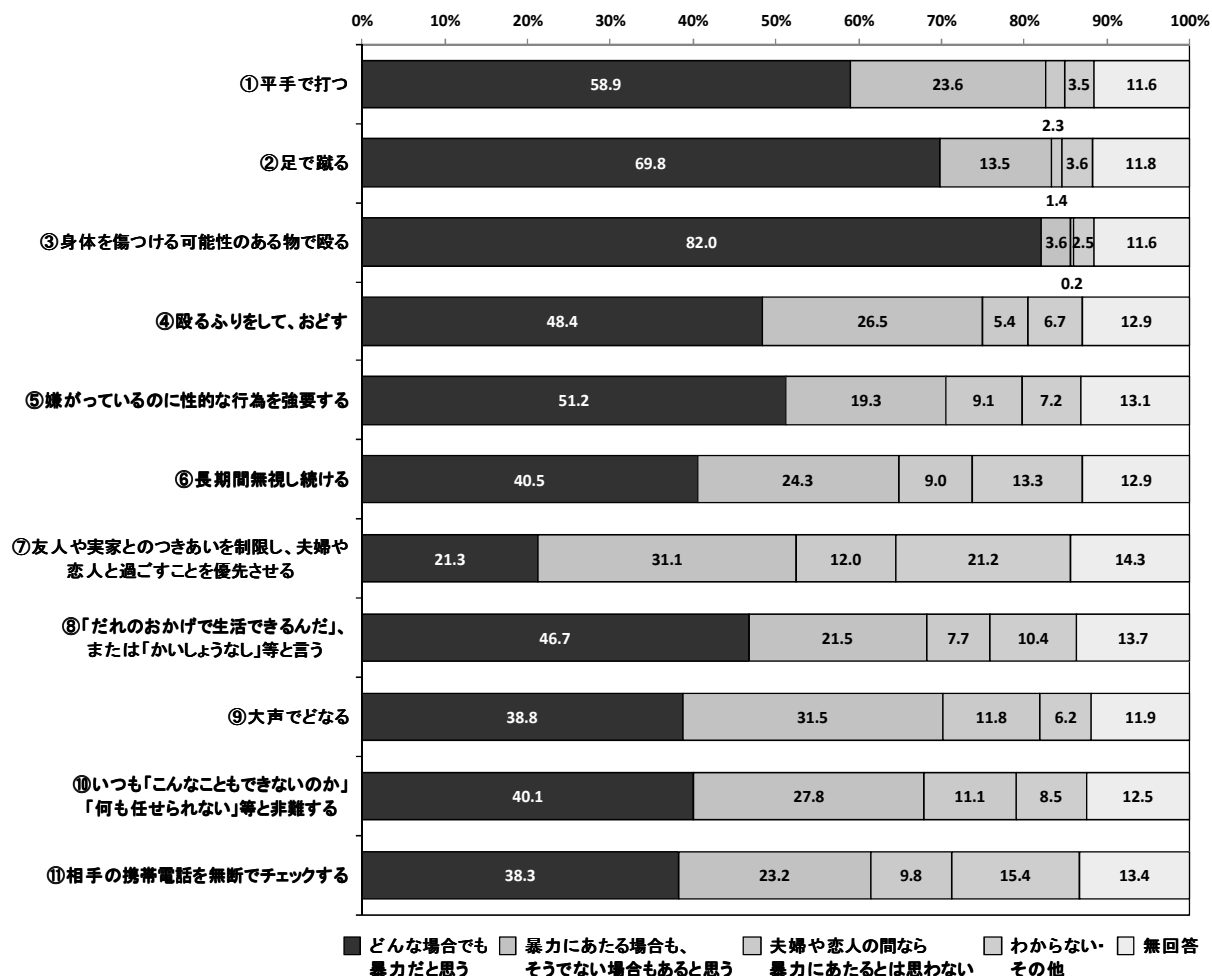
【ケース・バイ・ケースで暴力】

	サンプル数	平手で打つ	足で蹴る	身体を傷つける可能性のある物で殴る	殴るふりをして、おどす	嫌がっているのに性的な行為を強要する	長期間無視し続ける	過ごすことを優先させるとい	友人や実家とのつきあい	いき「だれののおかげで生活できようなし」等と言	大声でどなる	「いつも「こんなこともできないのか」「何も任せられない」等と非難する	相手の携帯電話を無断でチェックする
全体	866	29.1	16.2	3.6	30.6	17.6	33.5	43.2	24.8	40.4	33.9	33.4	
性別	男性	400	30.8	17.3	4.1	33.0	19.5	36.3	47.3	28.8	<b>49.0</b>	38.5	35.0
	女性	458	27.7	15.1	3.0	28.4	15.7	31.7	40.0	21.6	33.2	30.3	32.4
年齢別	男性若年	70	32.9	14.3	1.4	24.3	8.6	32.9	<b>51.4</b>	25.7	37.1	28.6	37.2
	男性中年	94	<b>36.2</b>	16.0	5.3	35.1	21.3	<b>41.5</b>	<b>51.1</b>	<b>31.9</b>	<b>58.5</b>	<b>45.8</b>	<b>43.6</b>
	男性高年	236	28.0	18.7	4.3	34.7	22.1	35.2	44.5	28.4	<b>48.7</b>	38.6	31.0
	女性若年	75	<b>36.0</b>	<b>24.0</b>	2.7	28.0	13.3	<b>45.3</b>	48.0	<b>32.0</b>	41.3	30.7	<b>53.3</b>
	女性中年	107	32.7	16.8	2.8	27.1	11.2	30.8	40.1	24.3	32.7	30.8	38.3
	女性高年	275	23.3	12.0	3.2	29.1	18.2	28.3	37.8	17.8	31.0	29.8	24.0

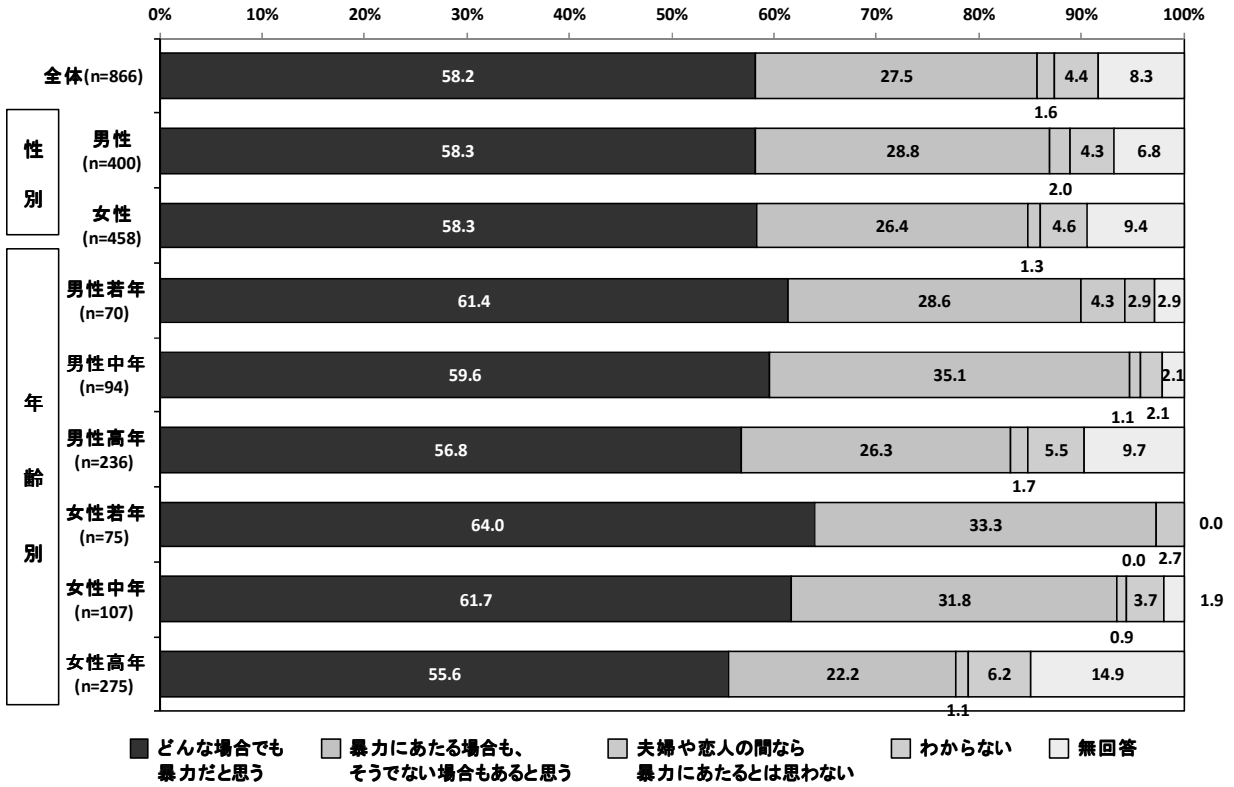
(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

※「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」+「夫婦や恋人の間なら暴力にあたるとは思わない」の合計割合

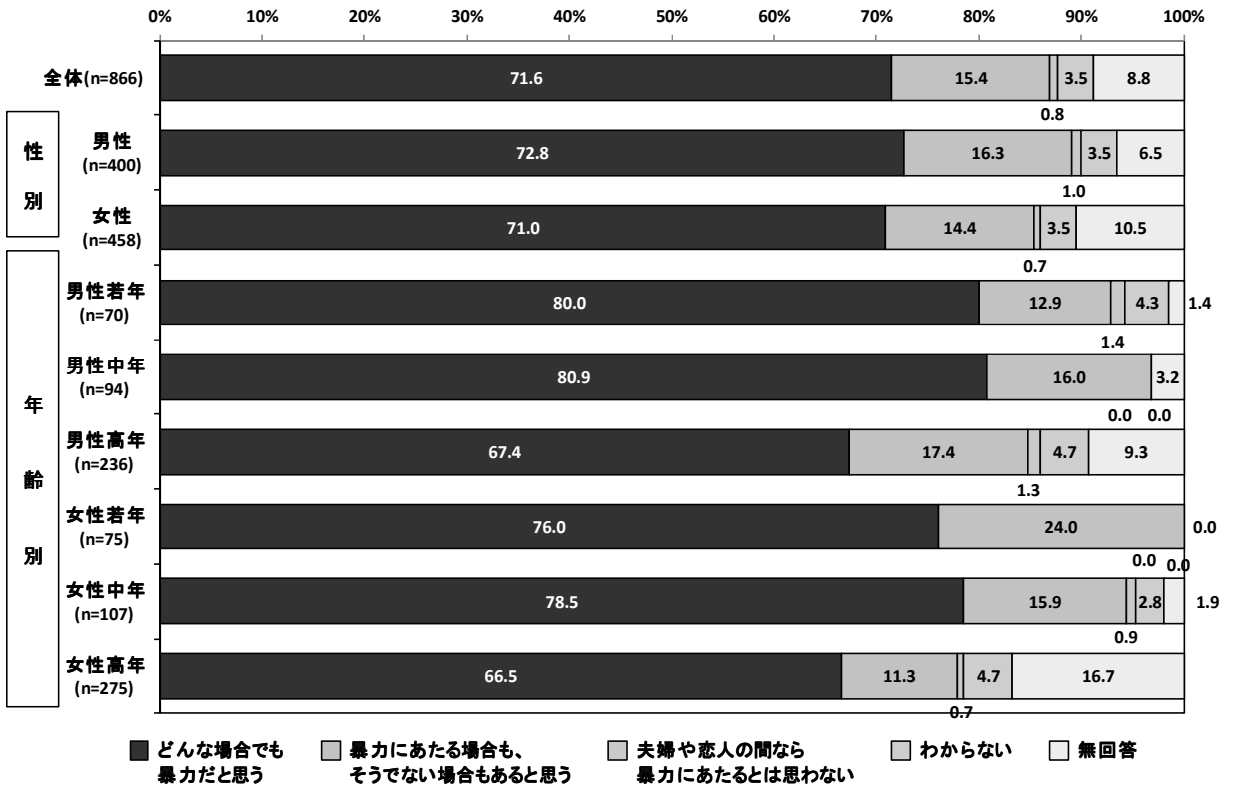
《 参考：前回（平成 23 年）調査結果 》



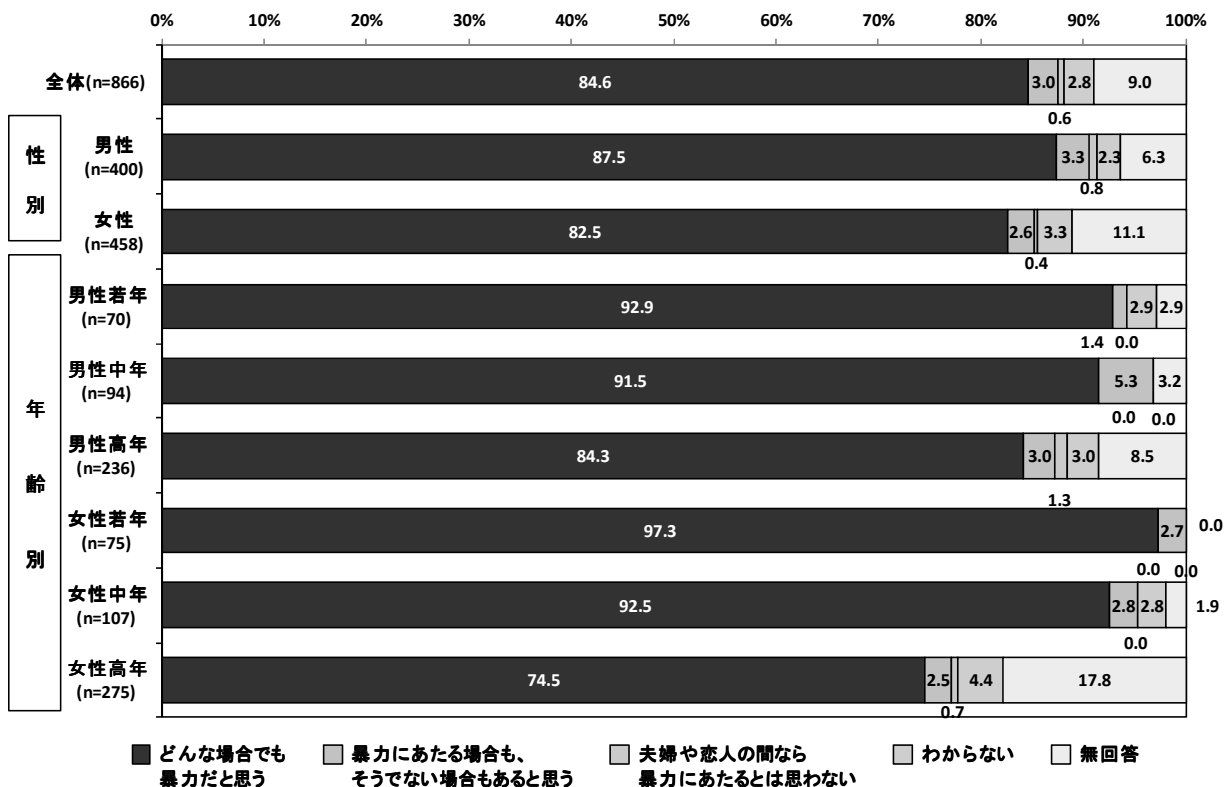
■ ①平手で打つ ■



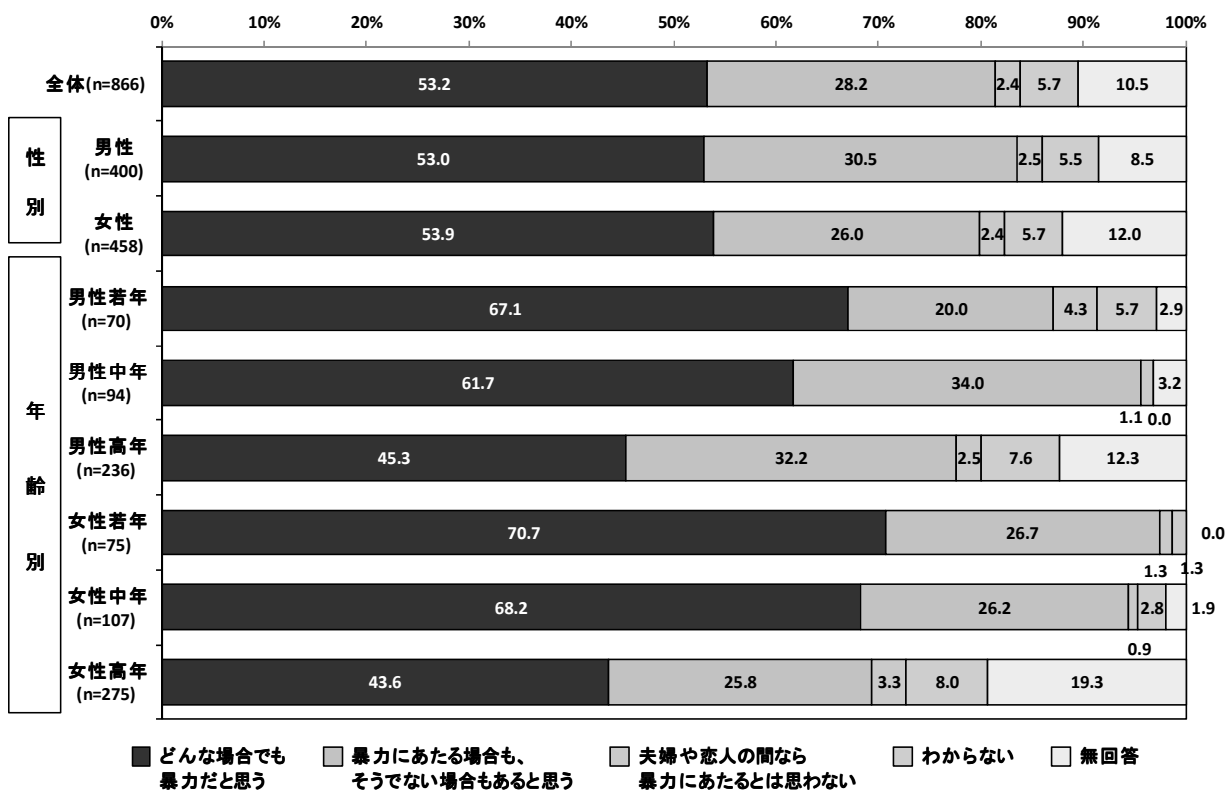
■ ②足で蹴る ■



### ■ ③身体を傷つける可能性のある物で殴る ■

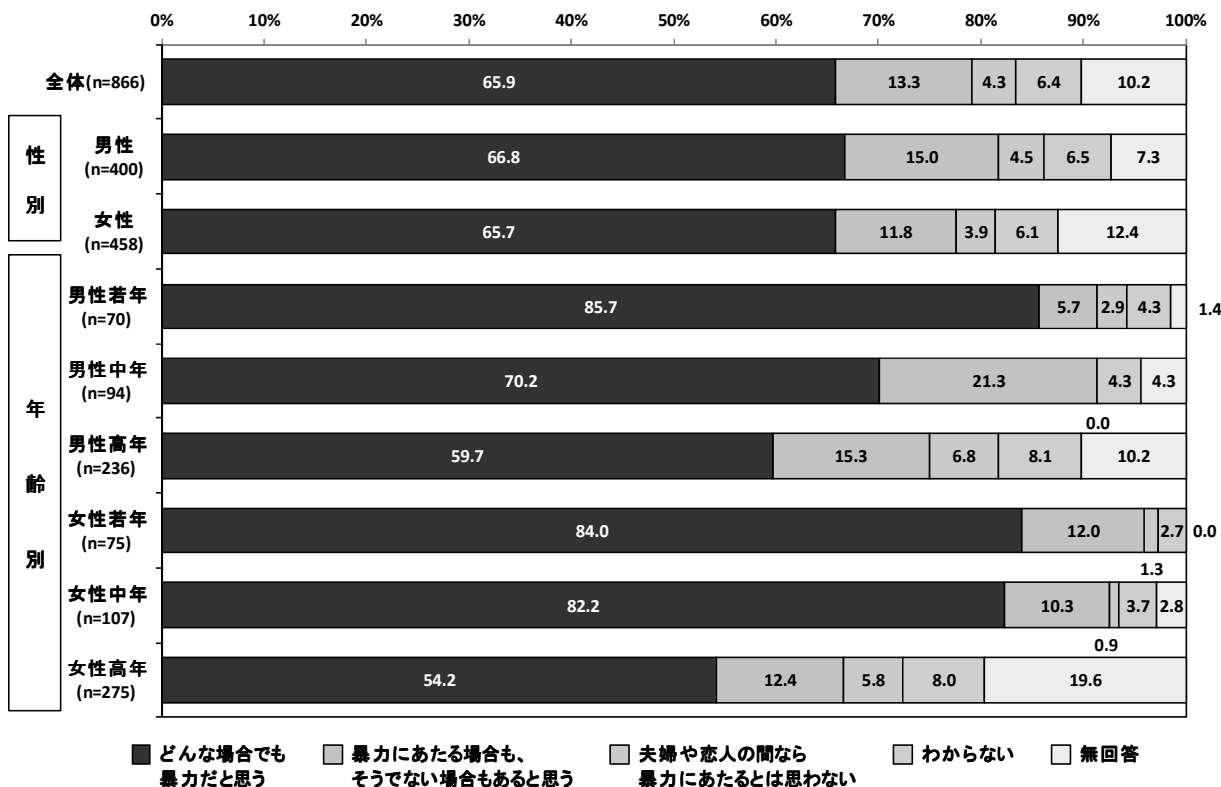


### ■ ④殴るふりをして、おどす ■

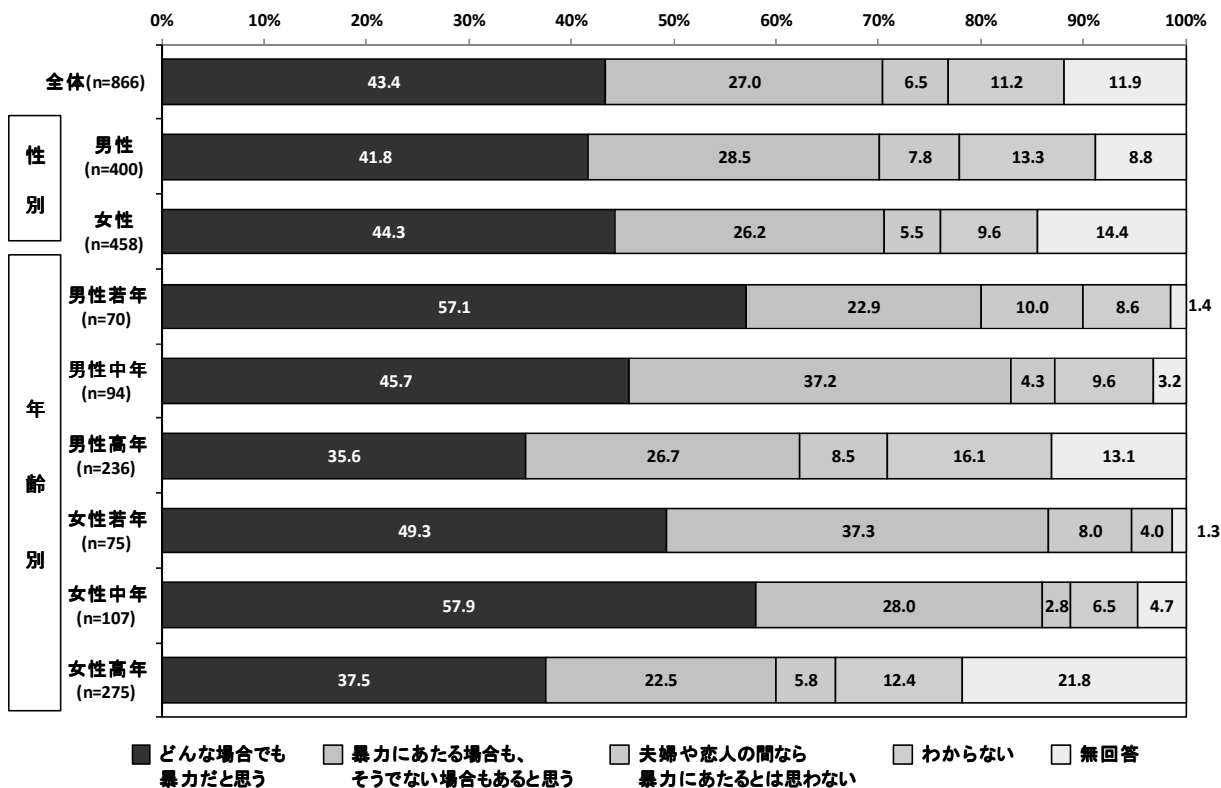




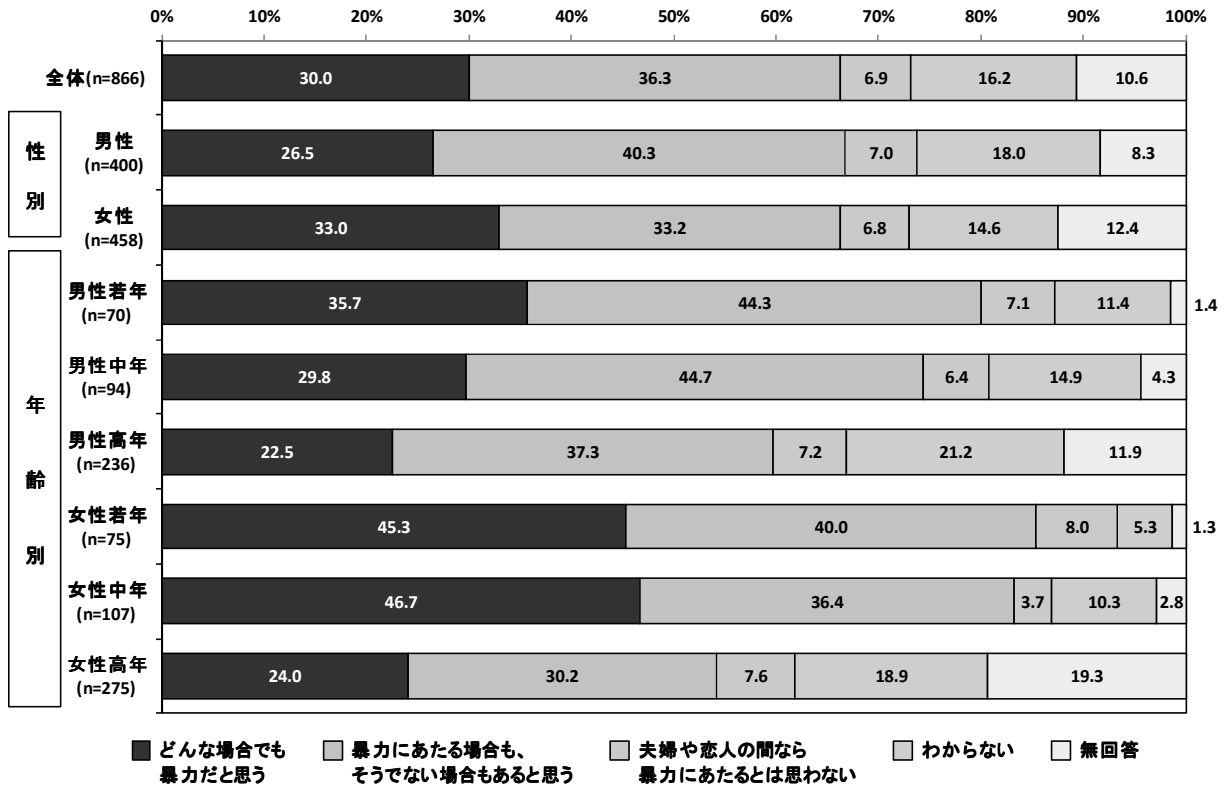
■ ⑤嫌がっているのに性的な行為を強要する ■



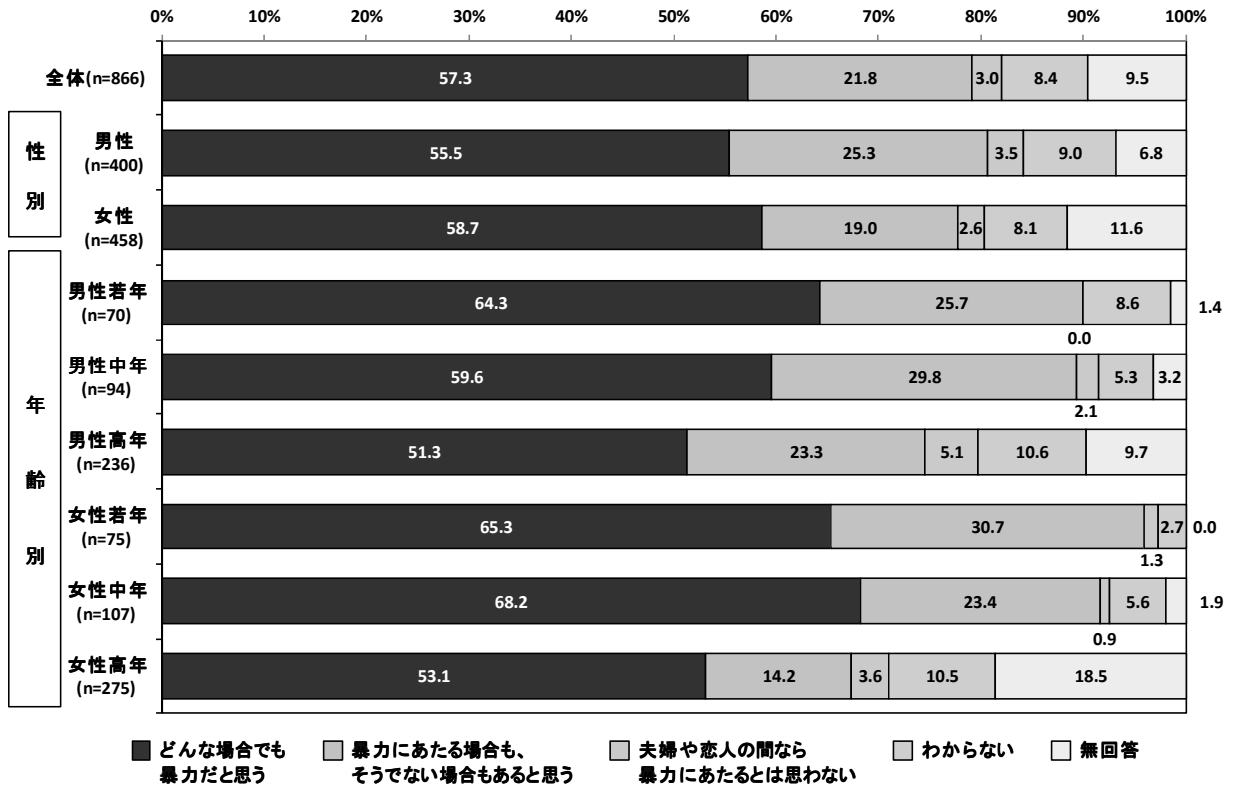
■ ⑥長期間無視し続ける ■



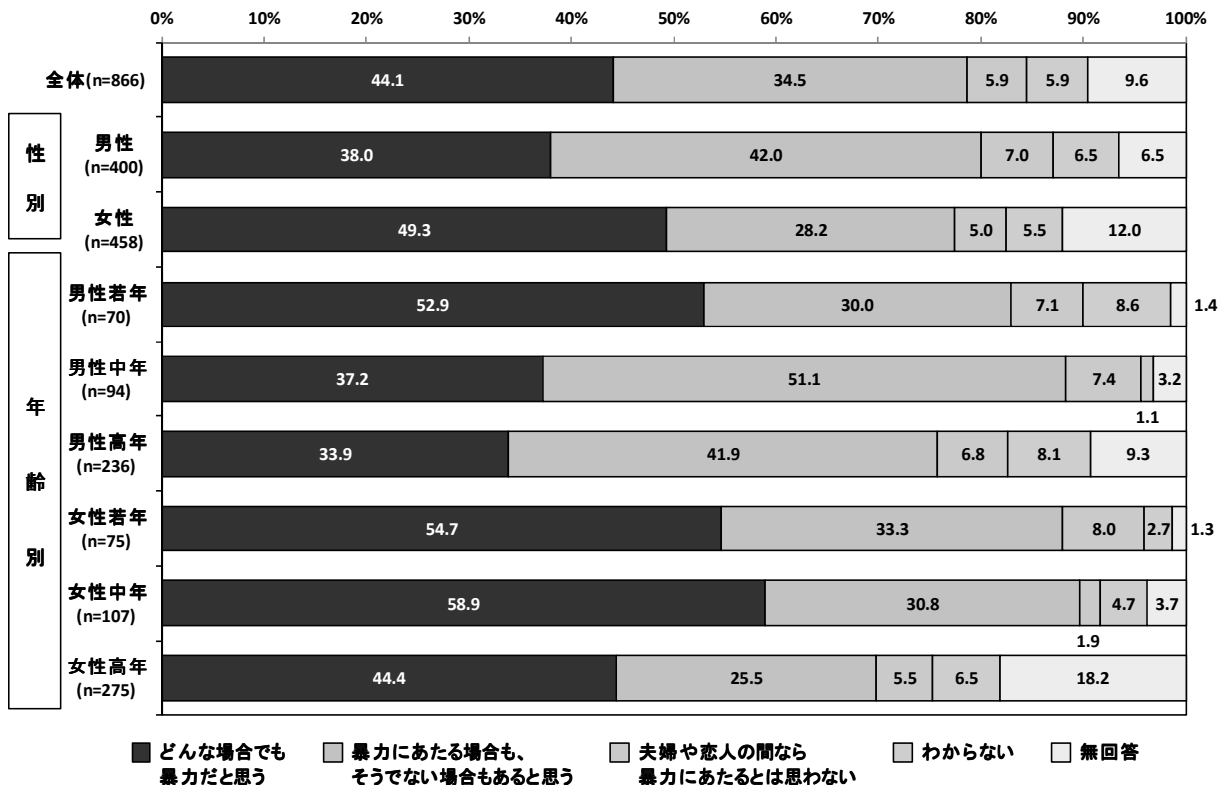
■ ⑦友人や実家とのつきあいを制限し、夫婦や恋人と過ごすことを優先させる ■



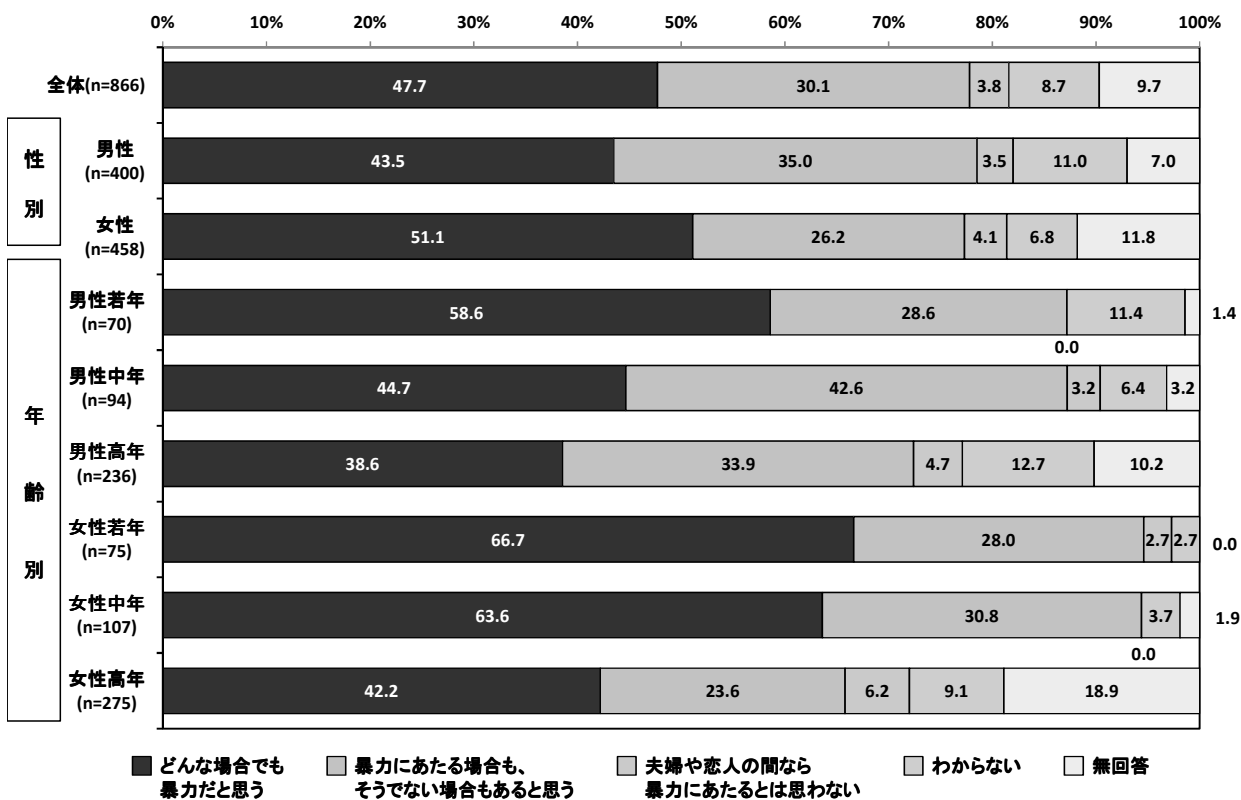
■ ⑧「だれのおかげで生活できるんだ」、または「かいしょうなし」等と言う ■



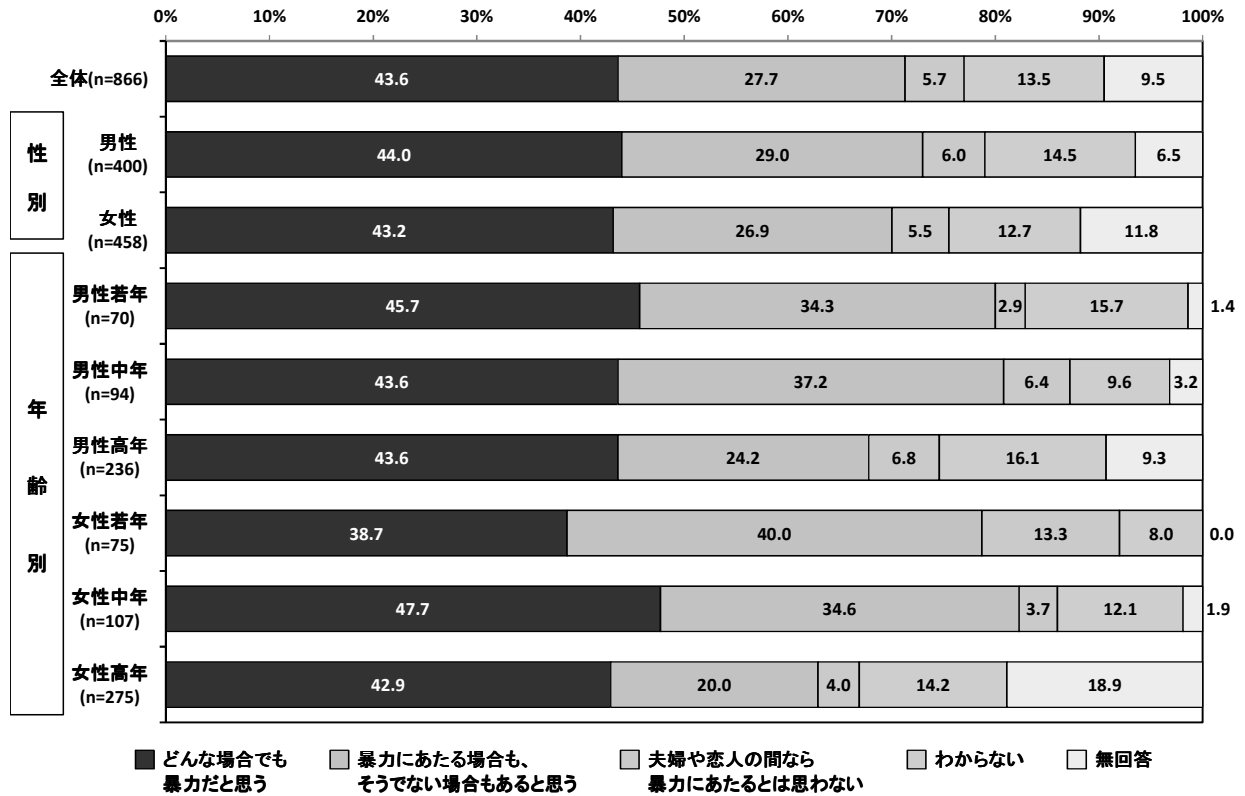
■ ⑨大声でどなる ■



■ ⑩いつも「こんなこともできないのか」「何も任せられない」等と非難する ■



■ ⑪相手の携帯電話を無断でチェックする ■



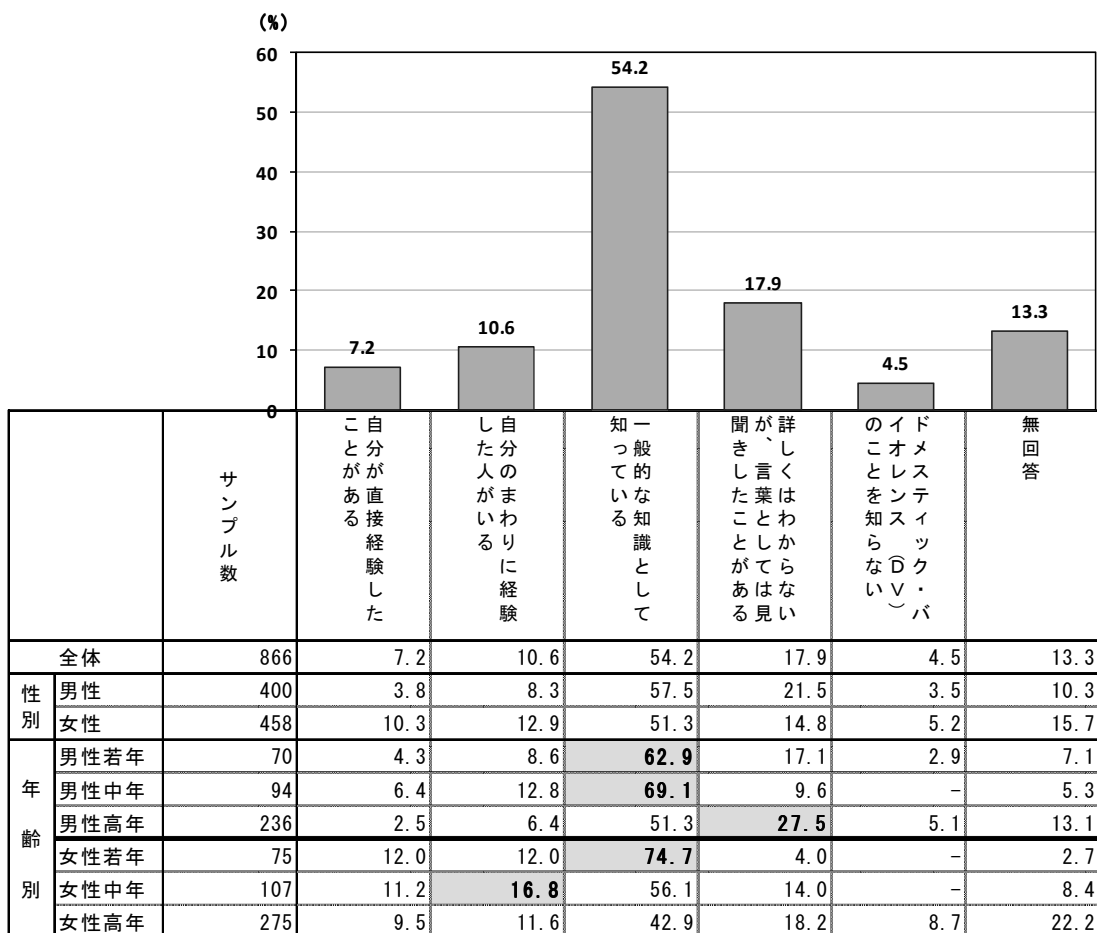
## 16 ドメスティック・バイオレンスを経験したり、見聞きしたりしたこと（問 24）

ドメスティック・バイオレンスを身近で経験したり、見聞きしたりした経験についてみると、「一般的な知識として知っている」が54.2%は半数を占め、「自分が直接経験したことがある」は7.2%、「自分のまわりに経験した人がある」は10.6%となっています。

### 【属性別特徴】

- 年齢別にみると、「自分が直接経験したことがある」は女性若年層（12.0%）、女性中年層（11.2%）で10%を超えています。

問 24. あなたは、ドメスティック・バイオレンスを身近で経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）



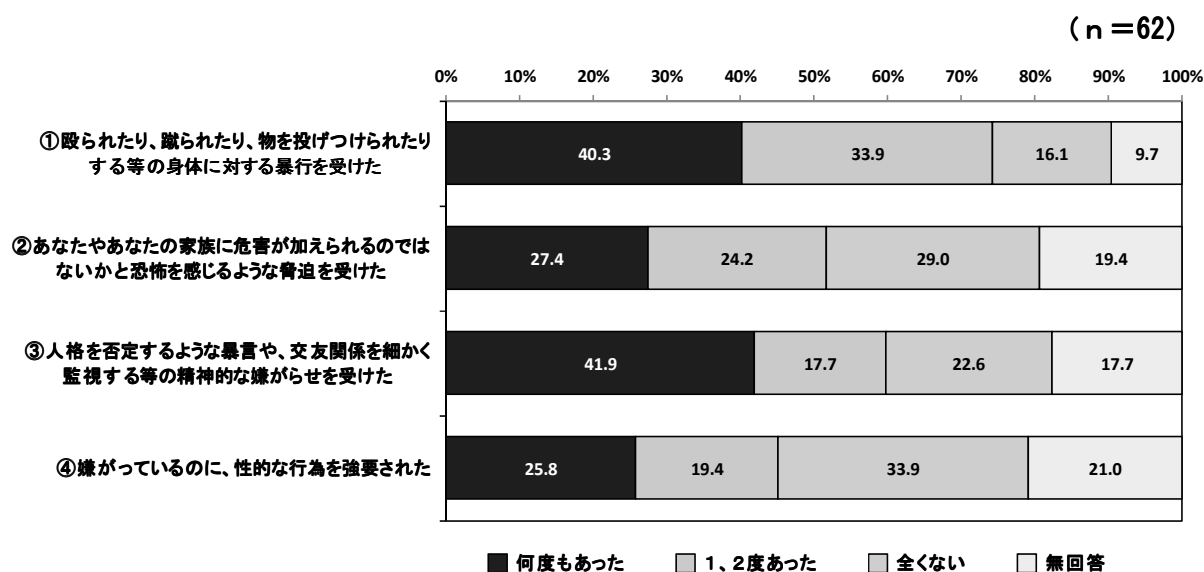
（注）**太字**は、全体よりも5ポイント以上大きいもの（「無回答」を除く）

## 17 受けたドメスティック・バイオレンス（問 25）

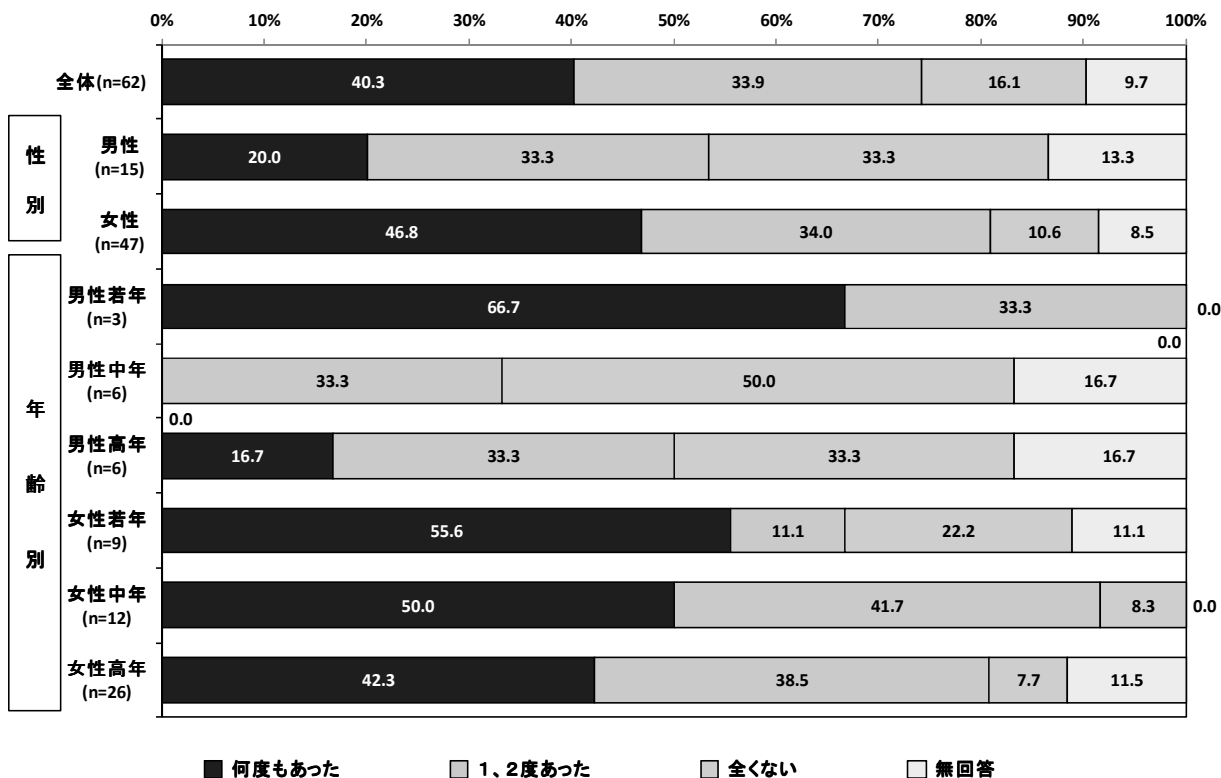
ドメスティック・バイオレンスを受けたことがある人の経験率（「何度もあった」＋「1,2 度あった」）は次のようになっています。

殴られたり、蹴られたり、物を投げつけられたり する等の身体に対する暴行を受けた	74.2%
人格を否定するような暴言や、交友関係を細かく 監視する等の精神的な嫌がらせを受けた	59.6%
あなたやあなたの家族に危害が加えられるのでは ないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	51.6%
嫌がっているのに、性的な行為を強要された	45.2%

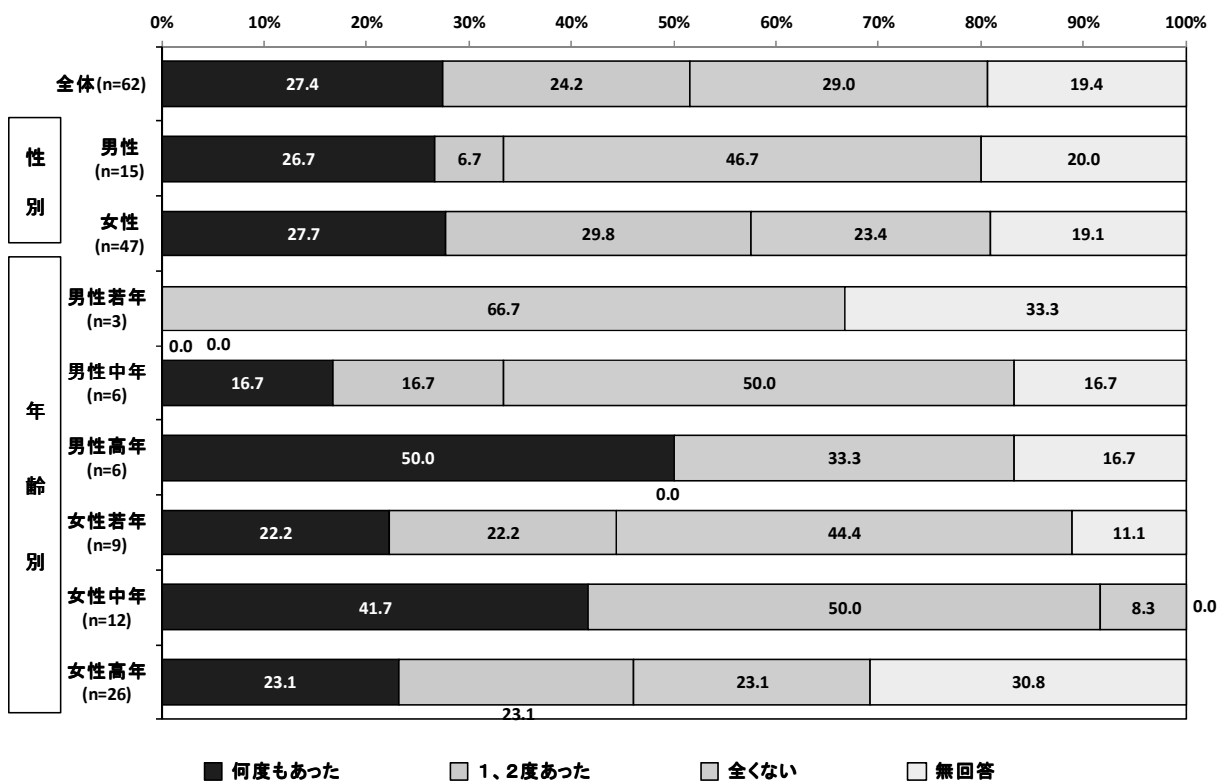
問 25.（問 24 で 1 と回答した方のみお答えください。）あなたはこれまでに、夫または妻、恋人から、次のようなことをされたことがありますか。（〇印 1 つずつ）



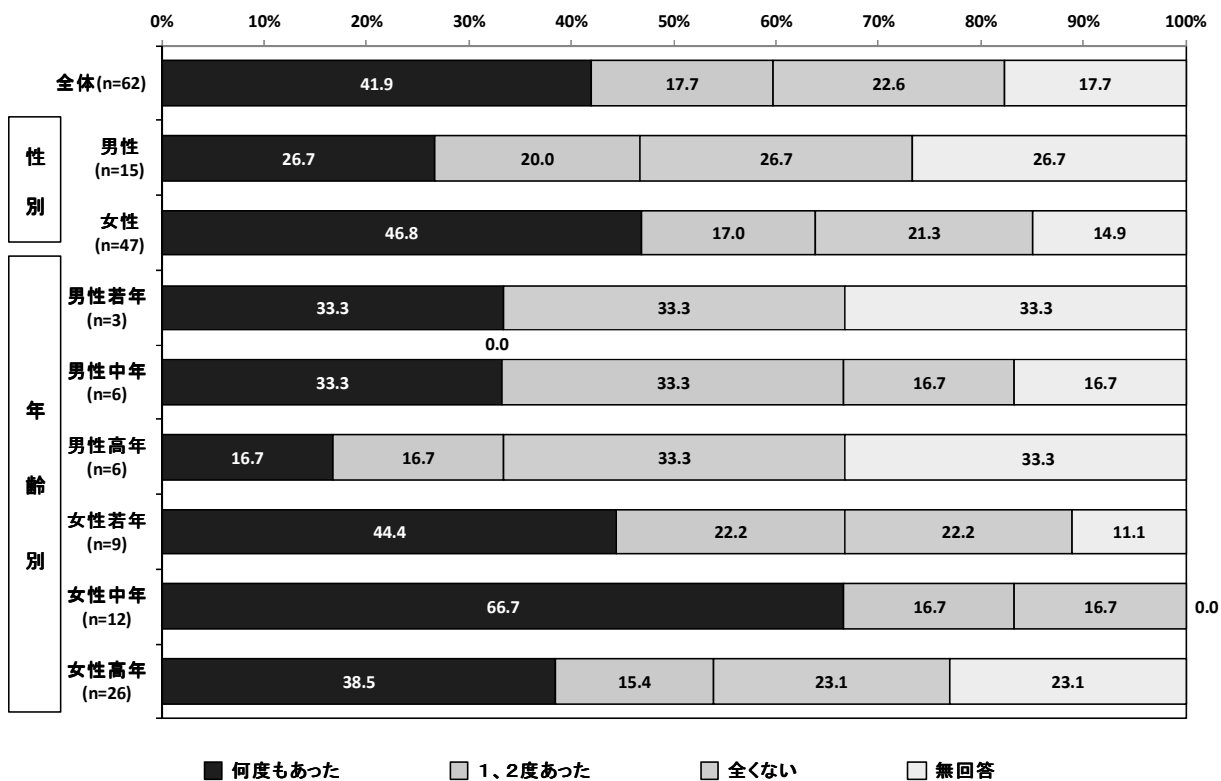
■ ①殴られたり、蹴られたり、物を投げつけられたりする等の身体に対する暴行を受けた ■



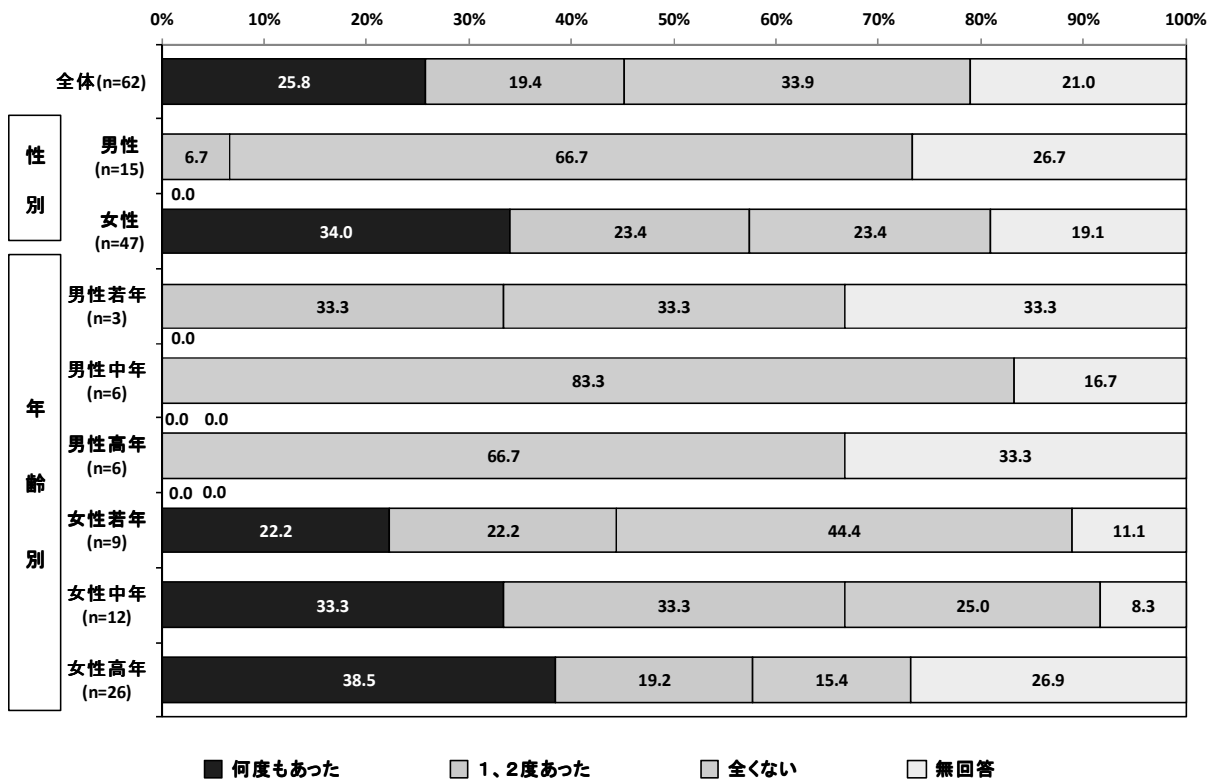
■ ②あなたやあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた ■



■③人格を否定するような暴言や、交友関係を細かく監視する等の精神的な嫌がらせを受けた■



■④嫌がっているのに、性的な行為を強要された■





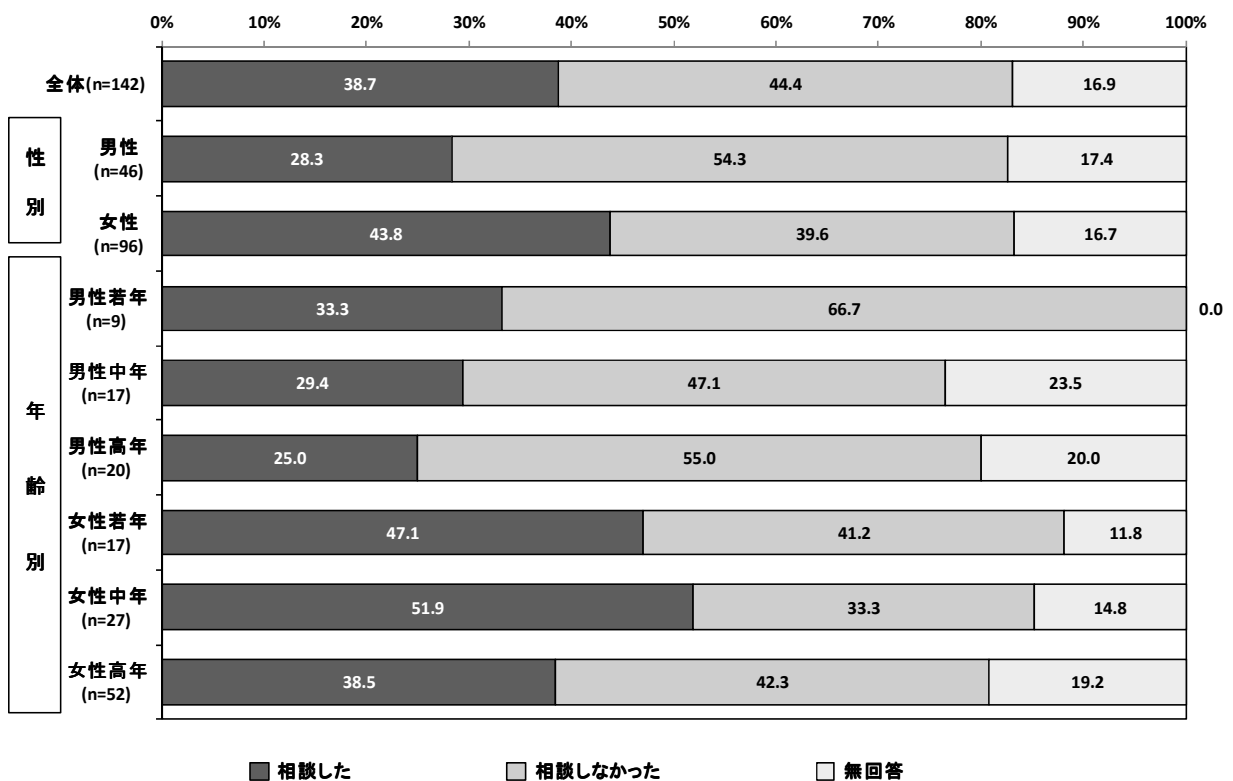
## 18 相談経験（問 26）

ドメスティック・バイオレンスを直接経験したことがある、また自分のまわりに受けたことがある人について、経験したことや見聞きしたことを、だれかに打ち明けたり、相談したことがあるかどうかをみると、「相談した」は38.7%、約3人に1人強にとどまっています。

### 【属性別特徴】

- 生保説にみると、「相談したことがある」は女性で43.8%と多くなっています。
- 年齢別にみると、「相談したことがある」は、女性中年層で51.9%と半数を超え、女性若年層では47.1%ちなっています。

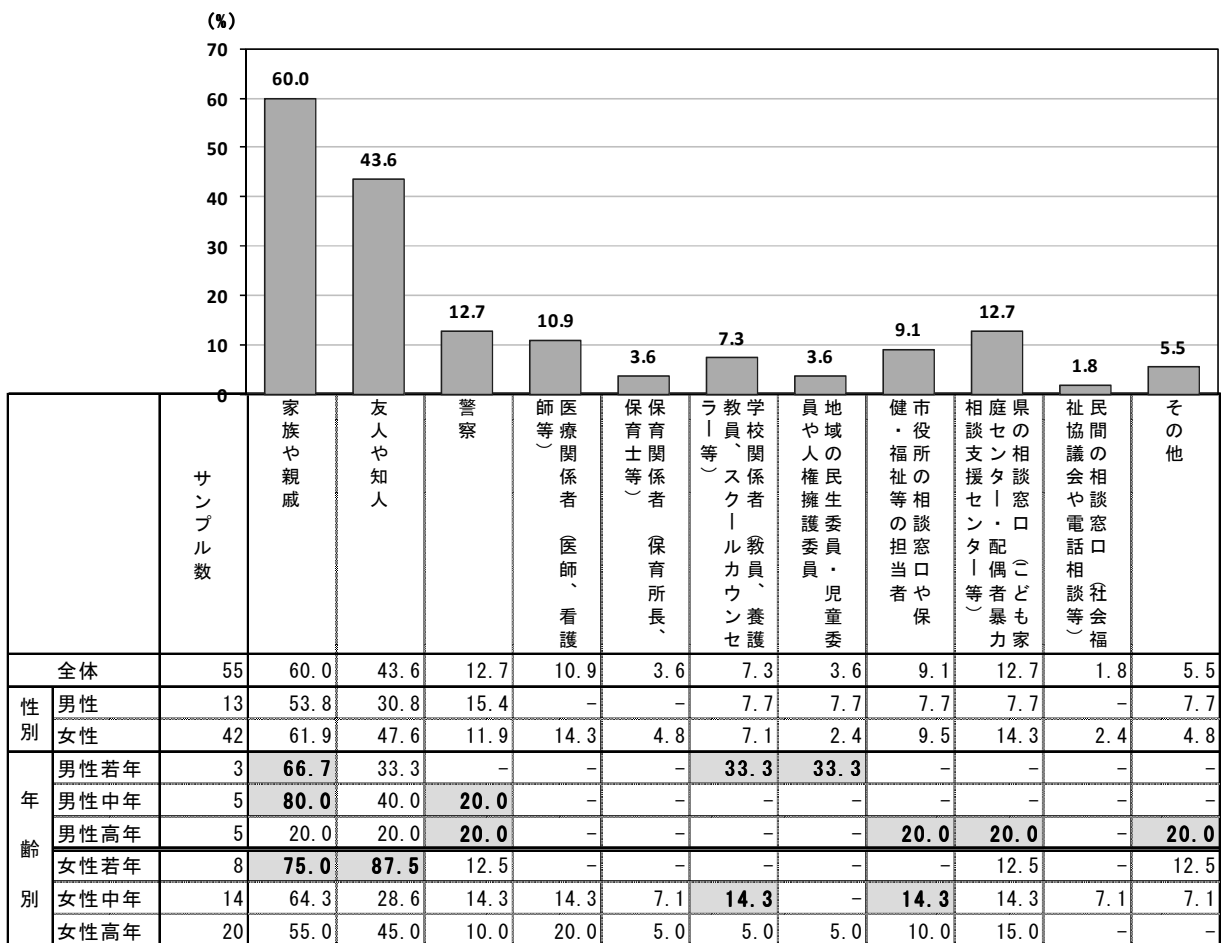
問 26.（問 24 で1または2と回答した方のみお答えください。）あなたは、経験したことや見聞きしたことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○印1つ）



## 19 相談相手 (問 27)

ドメスティック・バイオレンスのことを相談したことがある人に、相談相手についてたずねたところ。「家族や親戚」が60.0%と最も多く、次いで「友人や知人」が43.6%となっています。

問 27. (問 26 で1と回答した方のみお答えください。) あなたは、どこ(だれ)に相談しましたか。  
(〇印いくつでも)

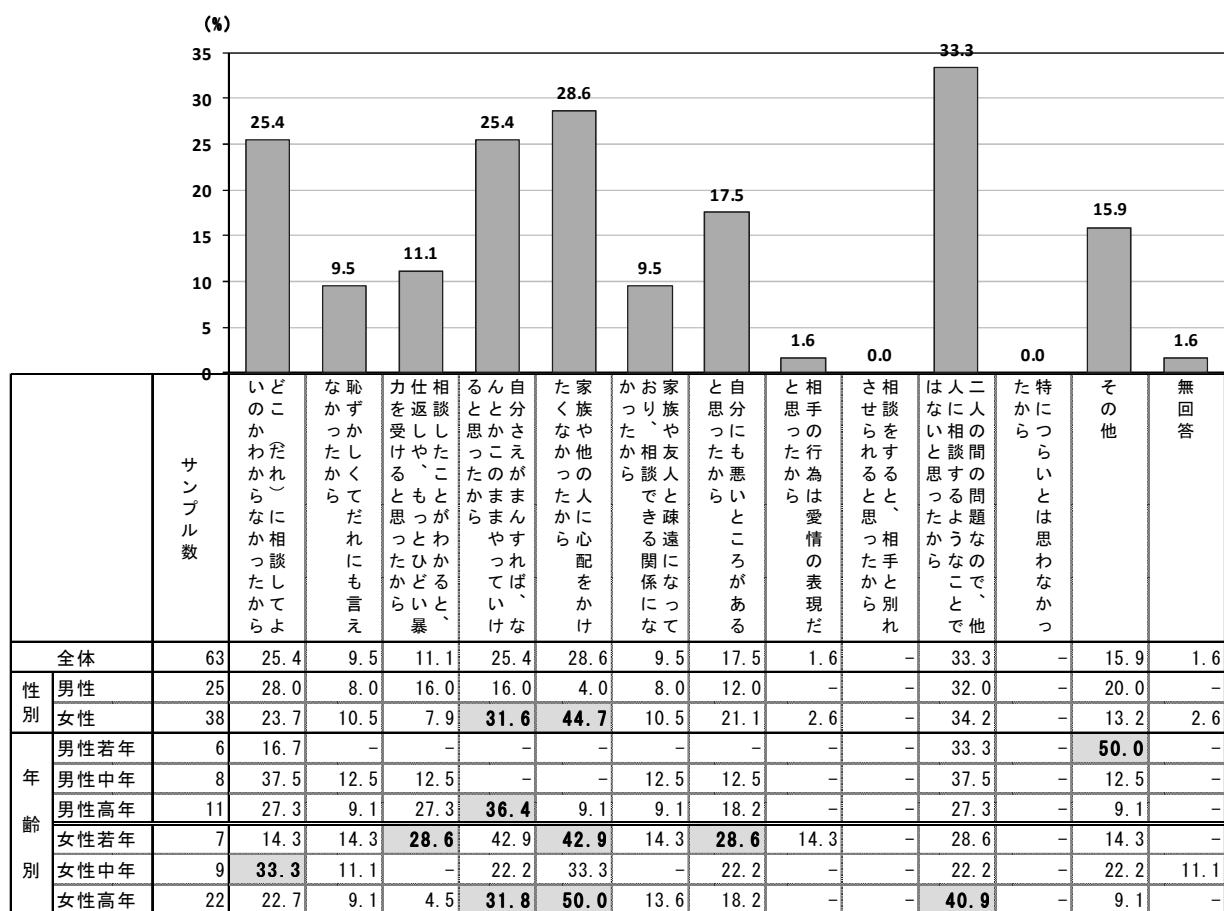


(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

## 20 相談しなかった理由（問 28）

ドメスティック・バイオレンスのことを相談したことがない人に、その理由を尋ねたところ、「二人の間の問題なので、他人に相談するようなことではないと思ったから」が 33.3%と最も多くなっています。次いで「家族や他の人に心配をかけたくなかったから」（28.6%）、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」（25.4%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（25.4%）となっています。

問 28.（問 26 で 2 と回答した方のみお答えください。）あなたが「どこ（だれ）にも相談しなかった」のは、どのような理由からですか。（○印いくつでも）



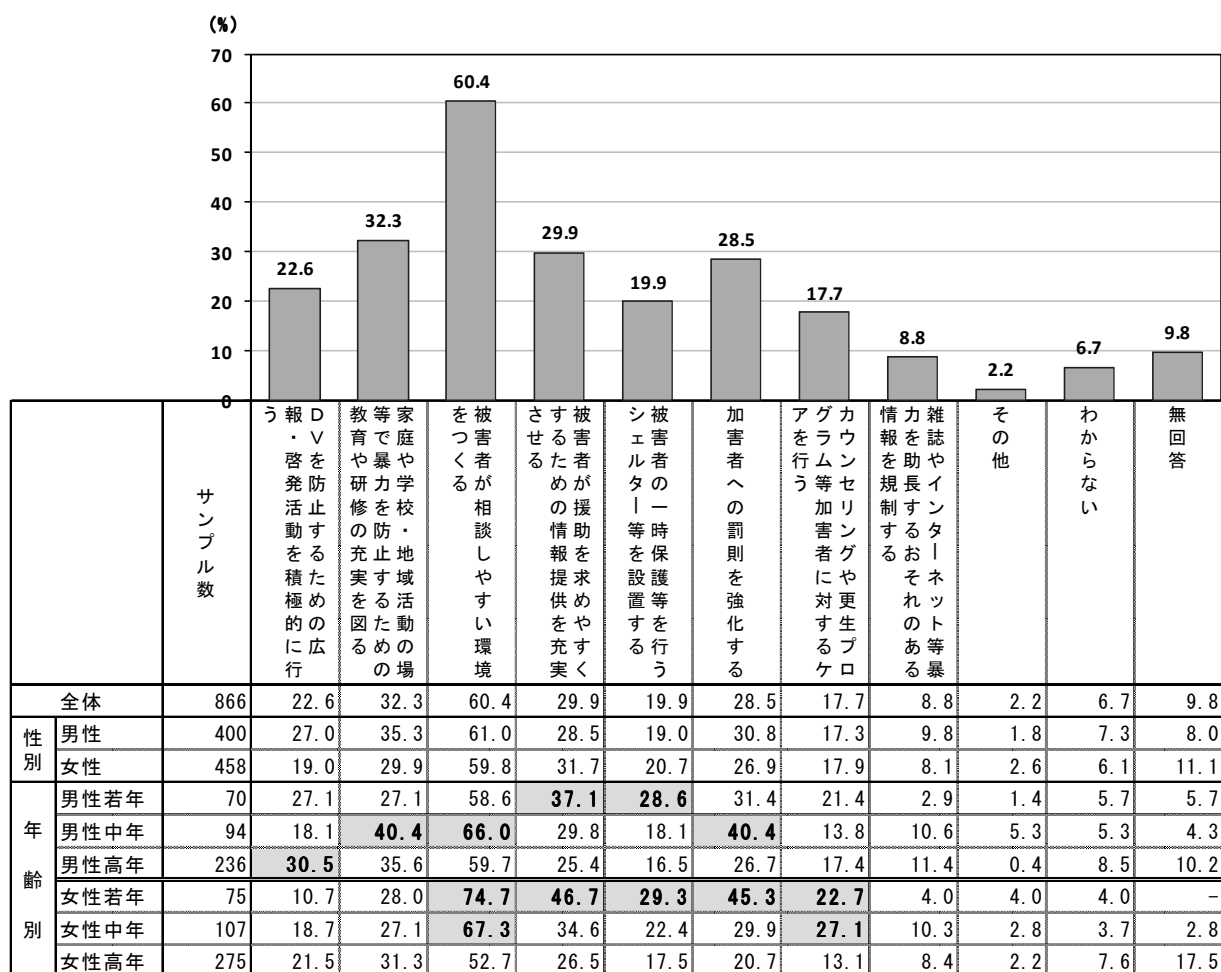
## 21 ドメスティック・バイオレンス（DV）を防ぐための取組（問 29）

ドメスティック・バイオレンス（DV）を防ぐためには必要な取組としては、「被害者が相談しやすい環境をつくる」が 60.4%と圧倒的に多くなっています。次いで「家庭や学校・地域活動の場等で暴力を防止するための教育や研修の充実を図る」（32.3%）、「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実させる」（29.9%）、「加害者への罰則を強化する」（28.5%）、「DVを防止するための広報・啓発活動を積極的に行う」（22.6%）となっています。

### 【属性別特徴】

- 年齢別にみると、女性若年層では、「被害者が相談しやすい環境をつくる」（74.7%）が 70%を超え。それと同時に「被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実させる」（46.7%）や「加害者への罰則を強化する」（45.3%）も多くなっています。

問 29. あなたは、今後、ドメスティック・バイオレンス（DV）を防ぐためには、どのような取組が必要だと思いますか。（○印3つまで）



(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの(「無回答」を除く)

## 男女共同参画社会について

### 22 男女共同参画社会に関連する用語の認知状況（問 30）

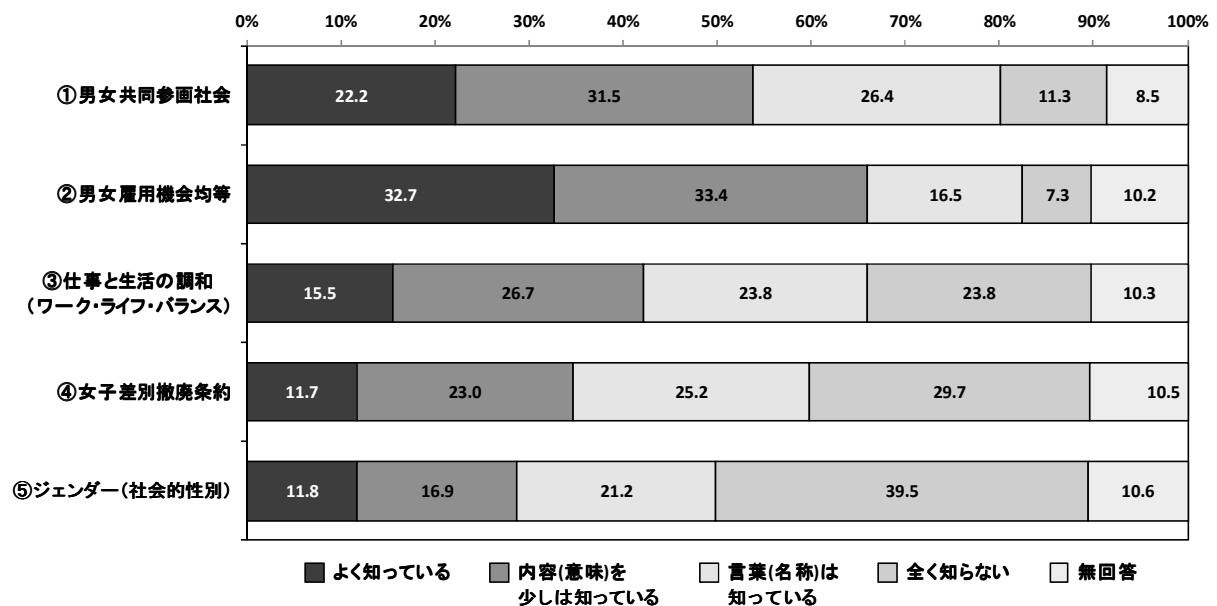
男女共同参画社会に関連する用語の認知状況については、以下のようになっており、『男女雇用機会均等』や『男女共同参画社会』の総合認知率は 80%を超えています。具体的な内容まで認知している人はまだ少ないのが現状です。

	よく知っている	内容(意味)を少しは知っている	言葉(名称)は知っている	総合認知率 (左記計)
男女雇用機会均等	32.7%	33.4%	16.5%	82.6%
男女共同参画社会	22.2%	31.5%	26.4%	80.1%
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	15.5%	26.7%	23.8%	66.0%
女子差別撤廃条約	11.7%	23.0%	25.2%	59.9%
ジェンダー(社会的性別)	11.8%	16.9%	21.2%	49.9%

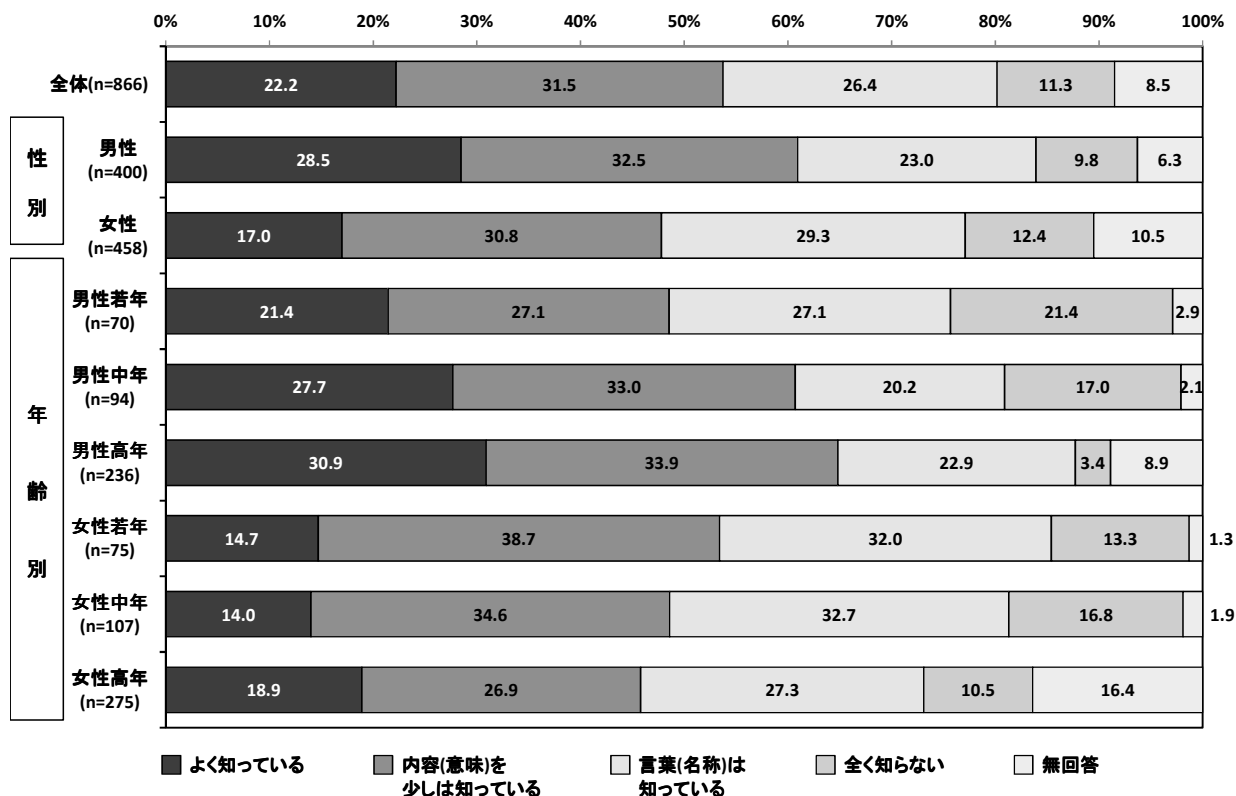
#### 【属性別特徴】

- 「よく知っている」は、男性よりも女性で少ない傾向にあります。その中で『ジェンダー(社会的性別)』は女性若年層で 29.3%と最も多くなっています。

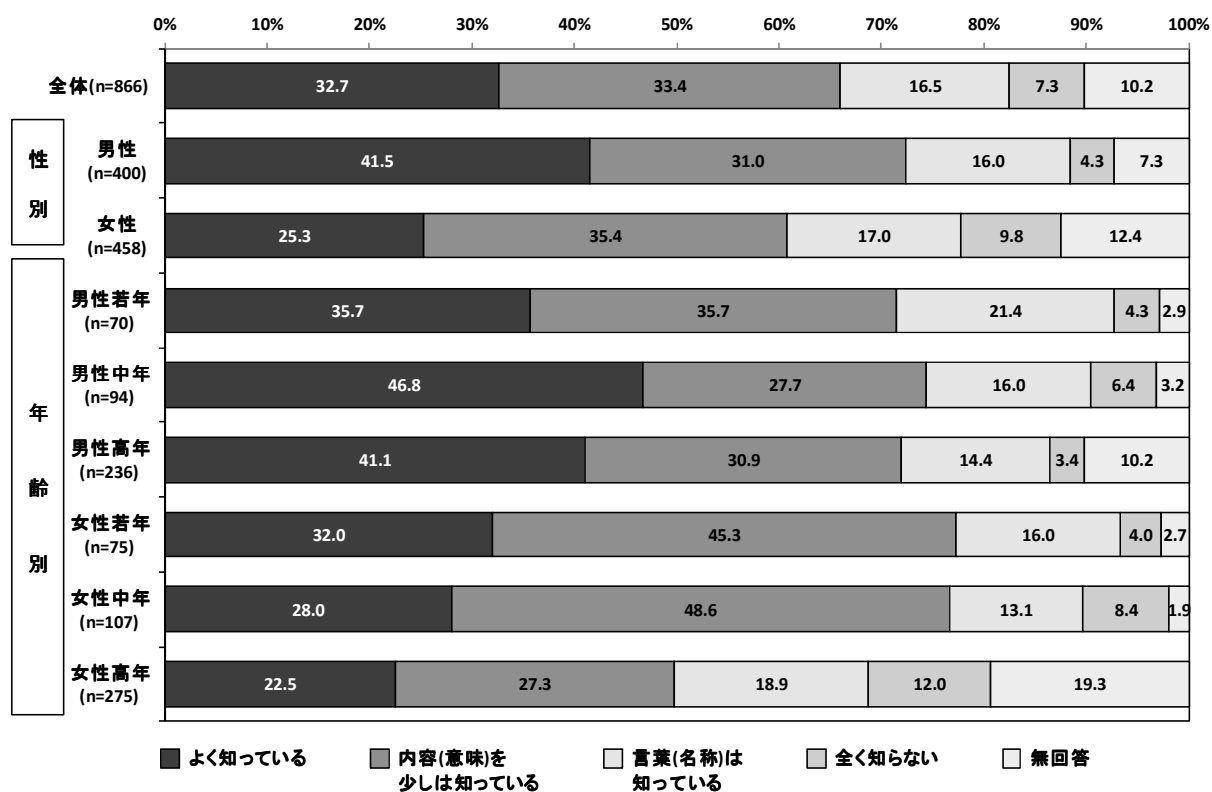
問 30. あなたは、次にあげる用語の意味をご存じでしたか。(○印1つずつ)



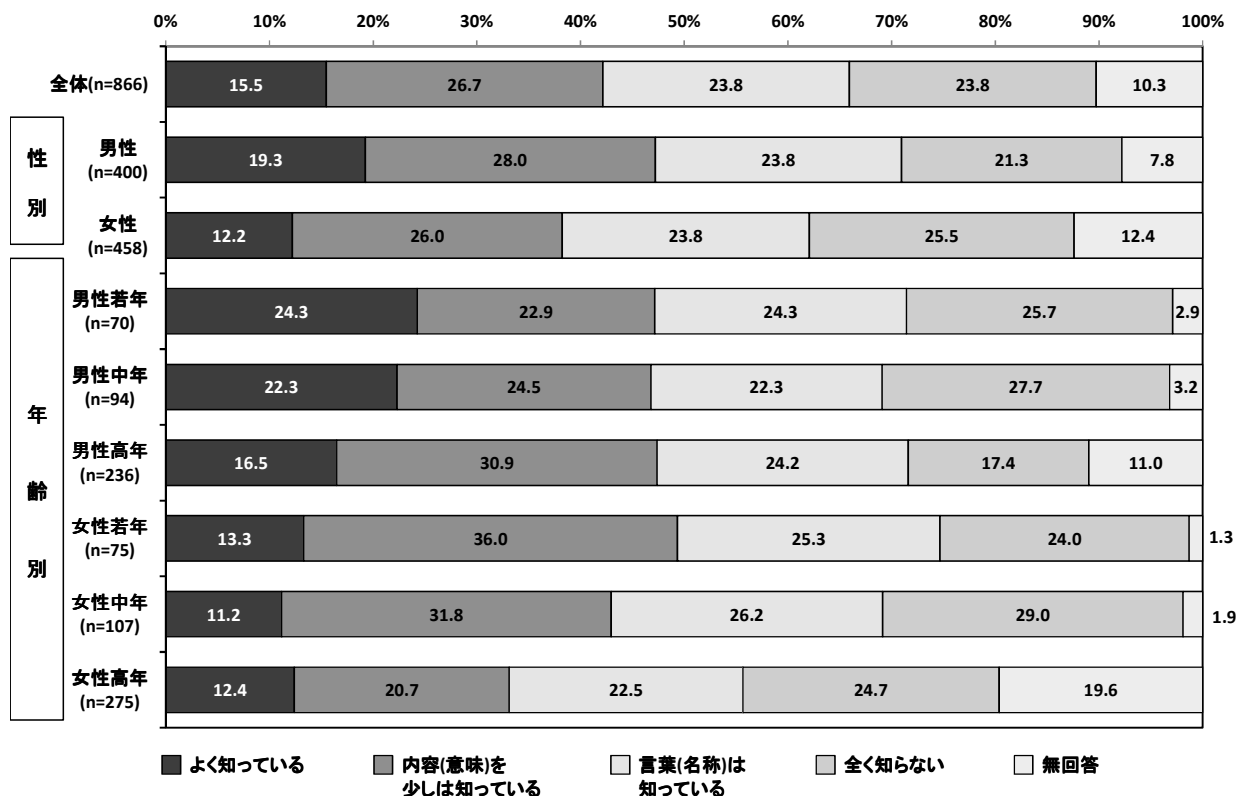
### ■ ①男女共同参画社会 ■



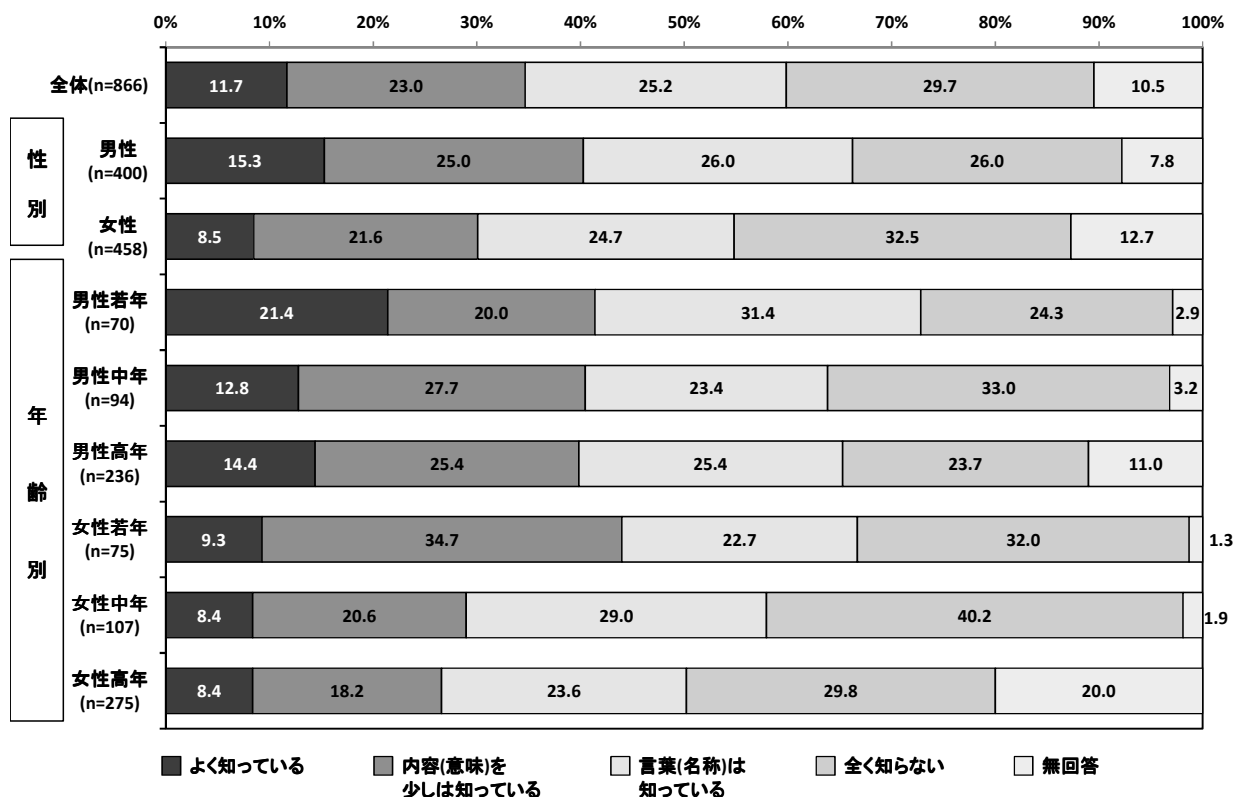
### ■ ②男女雇用機会均等 ■



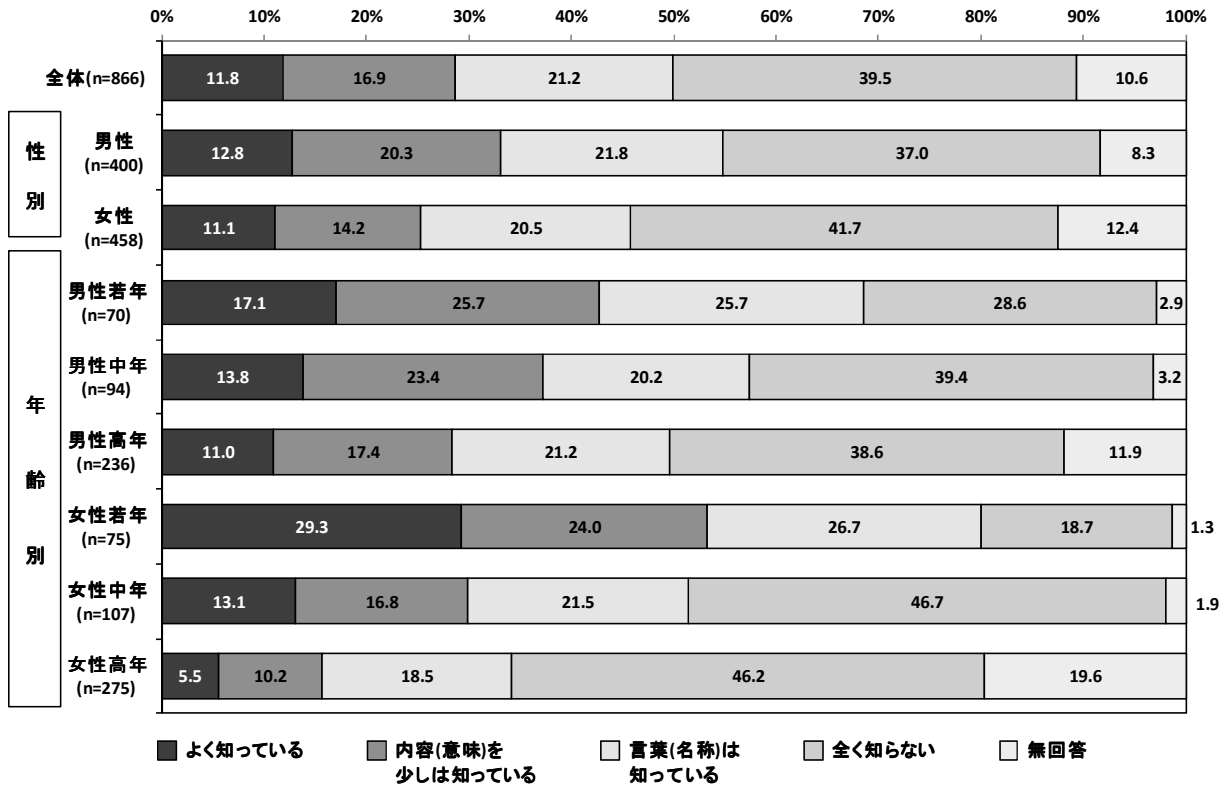
### ■ ③仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス） ■



### ■ ④女子差別撤廃条約 ■



■ ⑤ジェンダー（社会的性別） ■





## 23 男女共同参画に関連する取組（問 31）

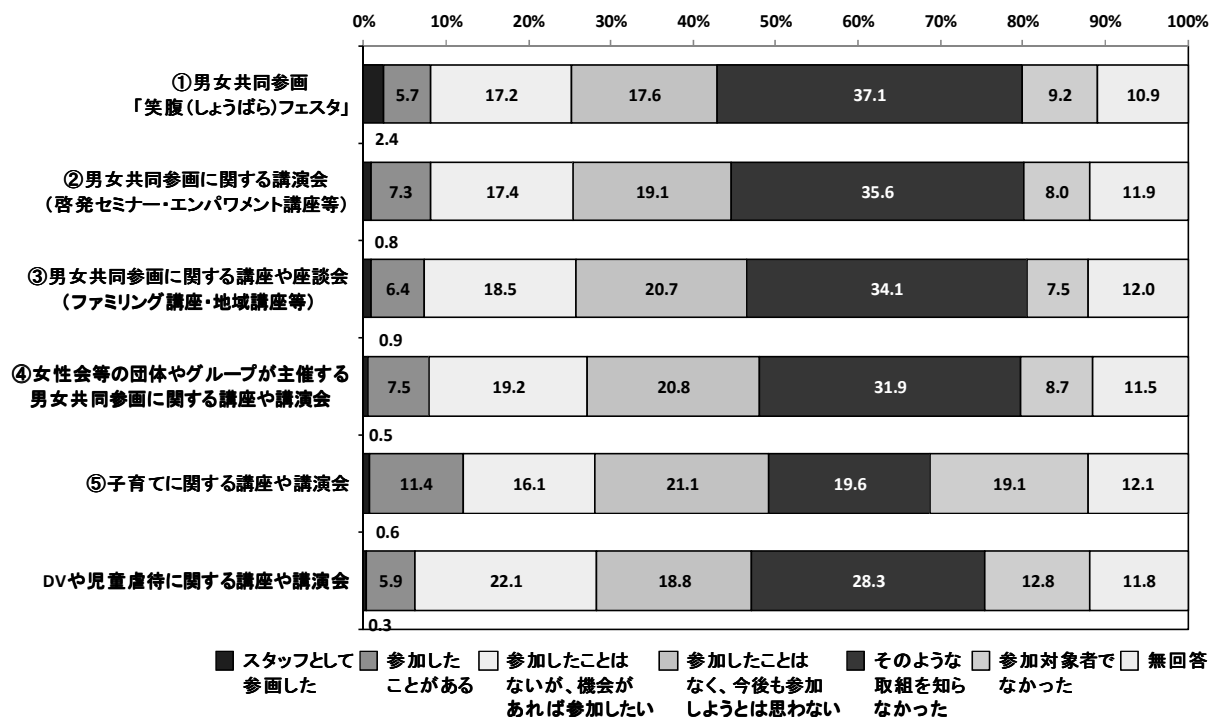
男女共同参画に関するさまざまな取組を推進していますが、いずれの取組も、「スタッフとして参画した」はほとんどなく、「参加したことがある」も『子育てに関する講座や講演会』以外は1ケタ台の参加率にとどまっています。

『子育てに関する講座や講演会』以外はいずれの項目も、「そのような取組を知らなかった」が最も多く、これに、「参加したことはなく、今後も参加しようとは思わない」を加えると半数前後を占めており、市民に十分浸透しているとはいえない状況にあります。

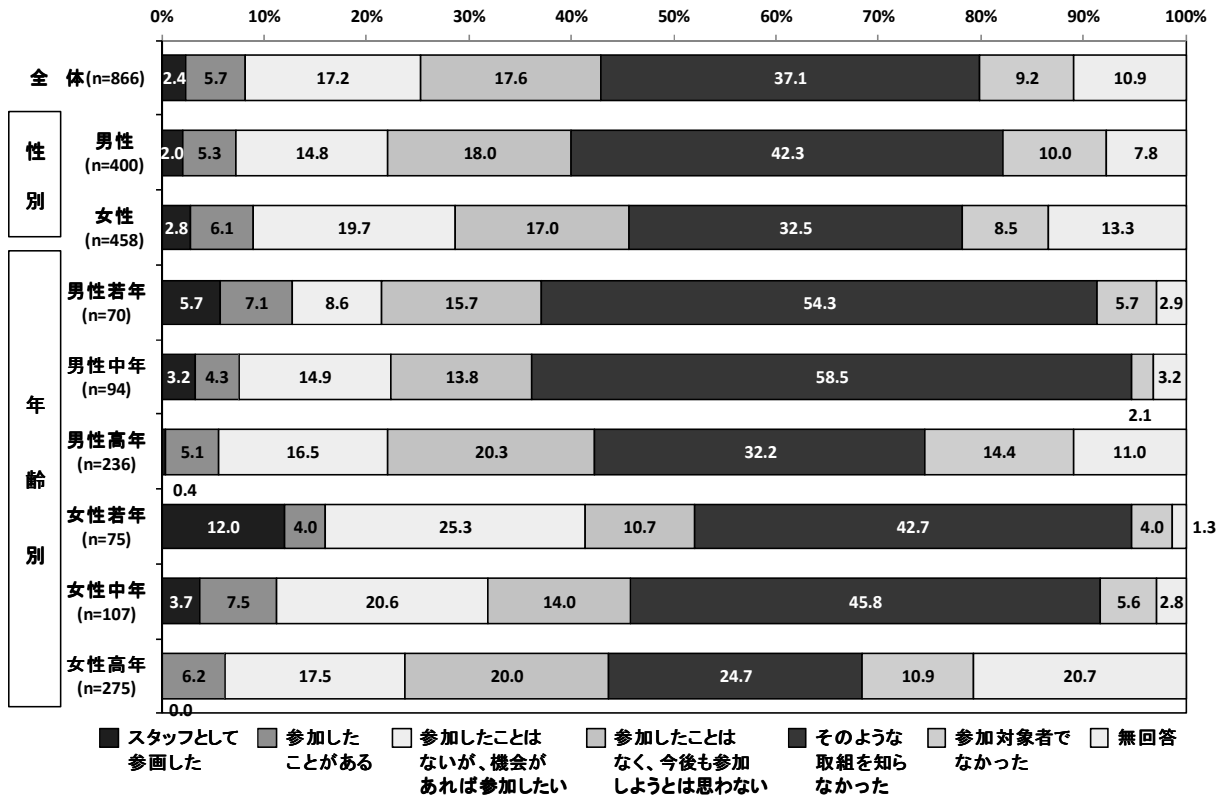
### 【属性別特徴】

- 年齢別にみると、各取組とも男性若年層や男性中年層で「そのような取組を知らなかった」が多く、『男女共同参画「笑腹（しょうばら）フェスタ」』『男女共同参画に関する講演会（啓発セミナー・エンパワメント講座等）』『男女共同参画に関する講座や座談会（ファミリング講座・地域講座等）』『女性会等の団体やグループが主催する男女共同参画に関する講座や講演会』では半数を超えています。

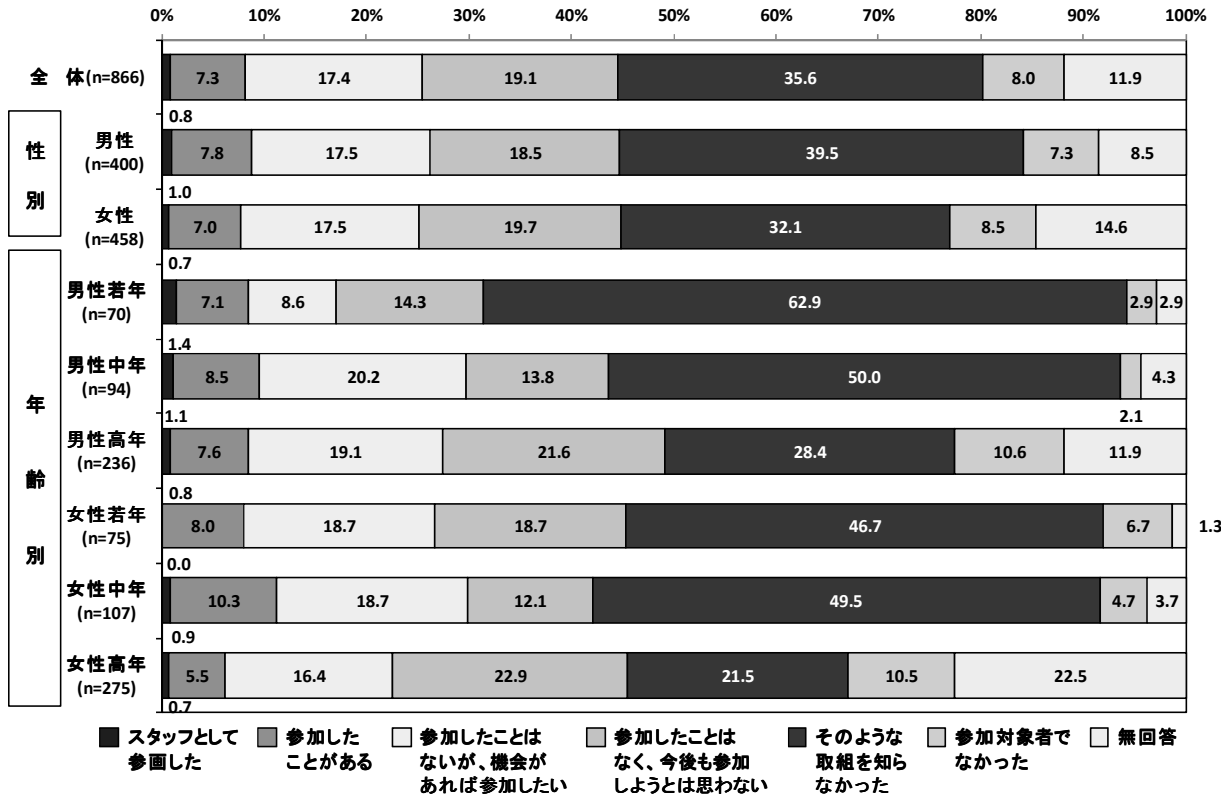
問 31. 庄原市では、次にあげる男女共同参画に関するさまざまな取組を推進しています。それぞれの取組について、あなたは参加の経験がありますか。（○印1つずつ）



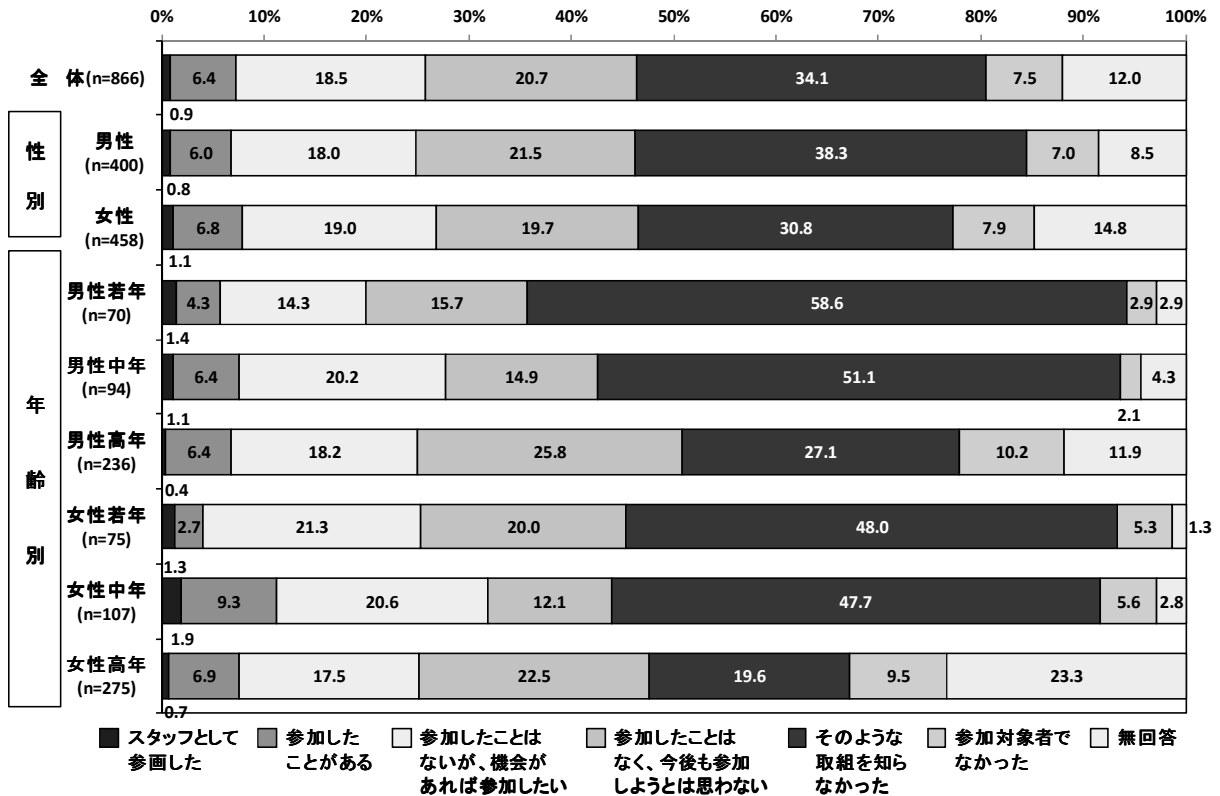
■ ①男女共同参画「笑腹（しょうばら）フェスタ」 ■



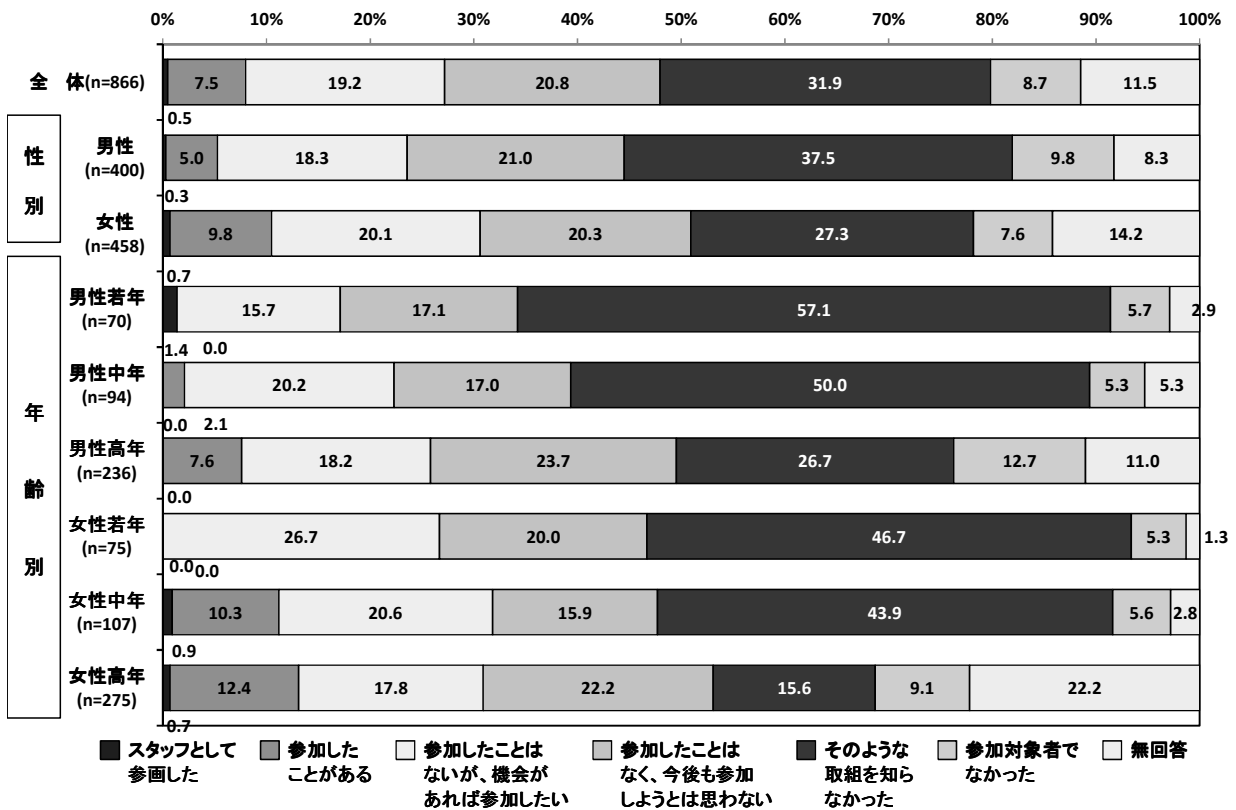
■ ②男女共同参画に関する講演会（啓発セミナー・エンパワメント講座等） ■



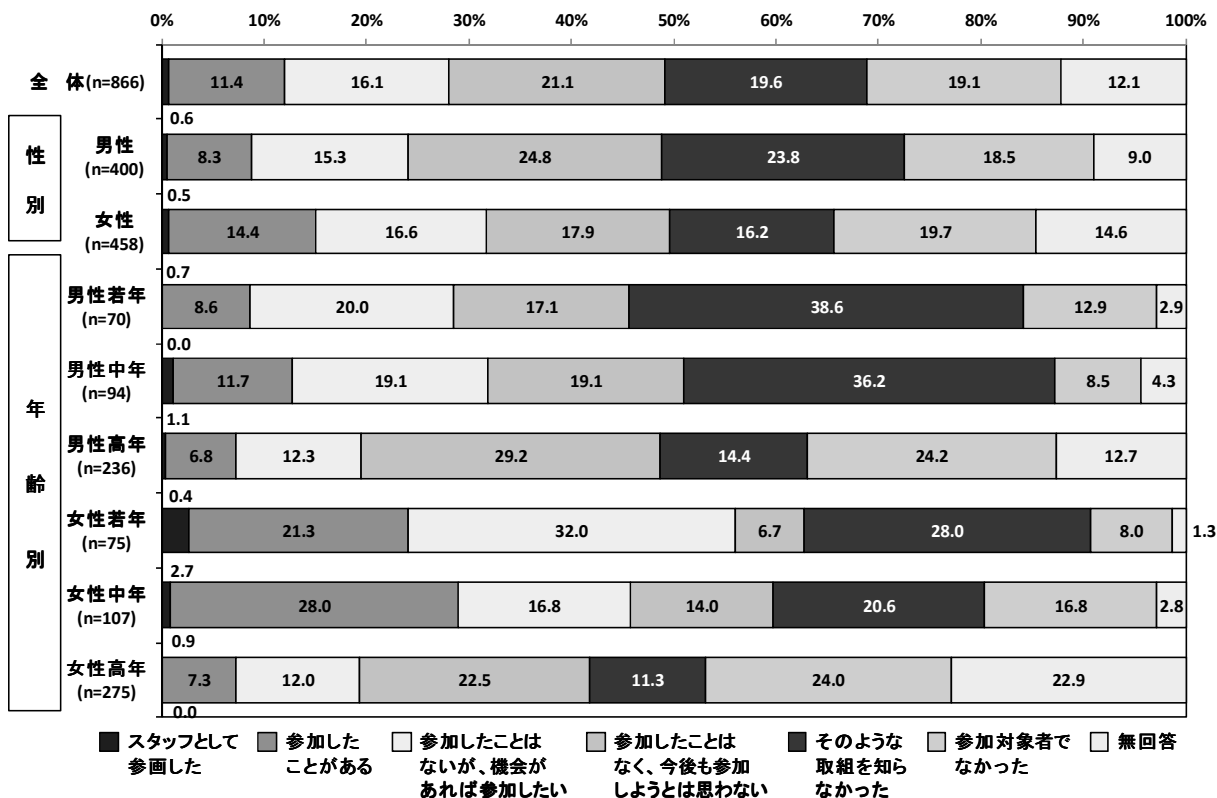
■ ③男女共同参画に関する講座や座談会（ファミリング講座・地域講座等） ■



■ ④女性会等の団体やグループが主催する男女共同参画に関する講座や講演会 ■



### ■ ⑤子育てに関する講座や講演会 ■



### ■ ⑥DV や児童虐待に関する講座や講演会 ■

